企画・監修

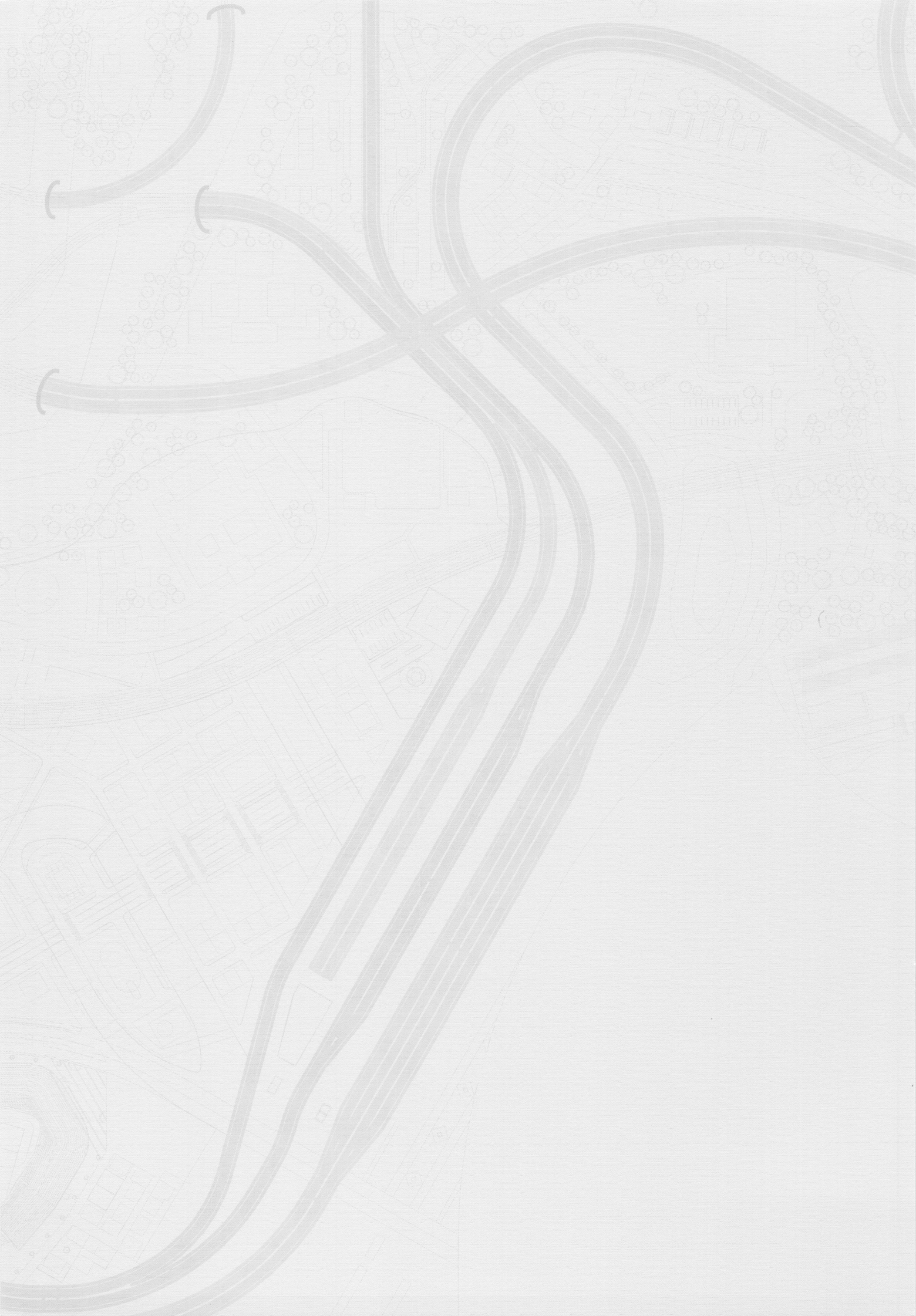
リニア・鉄道館

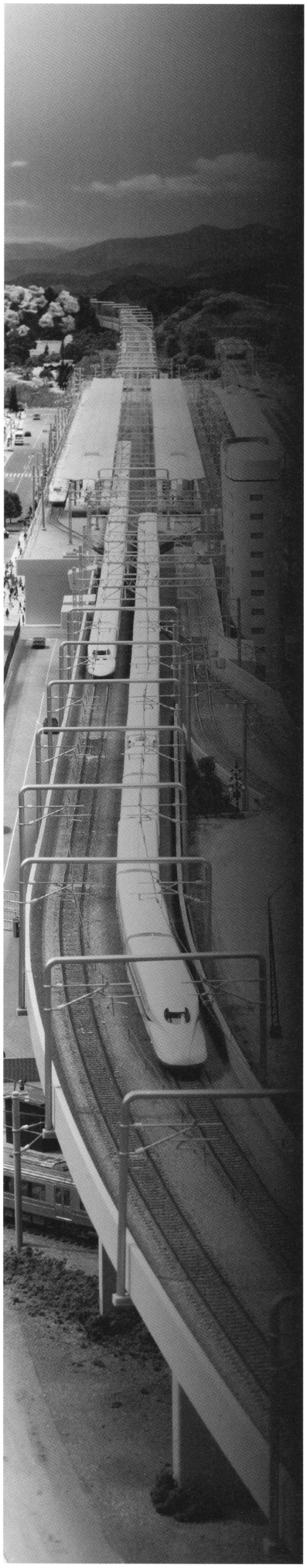
SCMAGLEV and Railway Park

公式 鉄道ジオラマガイド

OFFICIAL RAILWAY DIORAMA GUIDEBOOK

SCMAGLEV and Railway Park





企画・監修

リニア・鉄道館

SCMAGLEV and Railway Park

公式 鉄道ジオラマガイド

OFFICIAL RAILWAY DIORAMA GUIDEBOOK

リニア・鉄道館

SCMAGLEV and Railway Park

INDEX

01. ダイジェスト

ダイジェスト ・・・・・・・・・・・・・・・ 4
主な仕様 ・・・・・・・・・・・・・・・ 9
鉄道ジオラマ５つの特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・ 10

02. 創る

設計－日本最大級を目指して ・・・・・・・・・・・・・・・ 12
製作－ひとつひとつ手でつくる ・・・・・・・・・・・・・・・ 24
いざ現場へ ・・・・・・・・・・・・・・・ 28

03. 観る

オープン ・・・・・・・・・・・・・・・ 34
ジオラマを走る車両たち ・・・・・・・・・・・・・・・ 38
レールレイアウト ・・・・・・・・・・・・・・・ 42
全景 ・・・・・・・・・・・・・・・ 44
東京　横浜 ・・・・・・・・・・・・・・・ 46
静岡　山岳 ・・・・・・・・・・・・・・・ 50
名古屋 ・・・・・・・・・・・・・・・ 56
京都　奈良 ・・・・・・・・・・・・・・・ 62
大阪 ・・・・・・・・・・・・・・・ 66
探してみよう ・・・・・・・・・・・・・・・ 70
24 時間照明演出 ・・・・・・・・・・・・・・・ 76
メンテナンスと運行 ・・・・・・・・・・・・・・・ 78
鉄道ジオラマ・スタッフ ・・・・・・・・・・・・・・・ 79

鉄道ジオラマへの想い

「リニア・鉄道館」は、東海道新幹線を中心に、在来線から超電導リニアまでの展示を通じて「高速鉄道技術の進歩」を紹介するミュージアムとして、2011年3月に開館しました。鉄道に託された夢や、想い出をよみがえらせてくれる「夢と想い出のミュージアム」として、展示のひとつひとつを大切に創り上げました。そのひとつが「鉄道ジオラマ」です。

この鉄道ジオラマを製作するにあたって、私たちは多くの鉄道ジオラマを見聞しながら、当館にふさわしいジオラマとは何かを考え続け、いくつかの方向性を導き出しました。

まず、多くのお客さまに観て楽しんでいただけるよう、今までのジオラマの概念を超えたものを目指しました。間近に観ることができるガラスのないオープンな空間をつくり、そこに鉄道が走る風景を広げ、自然や建物、人々の生活感があふれる日常的なシーンを描き出すことに力を注ぎました。さらに、隠しキャラクターなどユーモラスな演出もあちこちに散りばめています。

そして、東海道新幹線を中心に、東京から新大阪までの沿線を舞台として特徴的なシーンを配置しました。走行する新幹線は16両編成で約5mにもおよぶ長大な模型車両で、実際の名古屋駅のホームと同じように発着を繰り返します。新幹線のほかにも、東海道線や中央線などの在来線、そして超電導リニアも走行しています。

さらに、鉄道の24時間を演出することにも挑戦しました。朝、昼、夕、夜と移り変わる時間のなかで、人々の暮らしにある鉄道を光や音の演出を交えて描いています。一方では、安全で快適な鉄道を支える深夜の保守作業や、車両工場での点検など、普段では見ることがないシーンを再現しながら眠らない鉄道を表現しました。

鉄道ジオラマが実現するまでには、企画・設計に2年、製作に1年の時間を要しました。企画、設計、製作、運用の各段階で、当社の担当者をはじめ展示や模型などさまざまな分野のプロフェッショナルが加わり、チームとして取り組んできました。スタッフ一同が目標を共有し、夢を語り、議論を重ね、想いを込め、一歩ずつ積み上げてきた結晶がこの鉄道ジオラマです。

どうか、この鉄道ジオラマを隅々までご覧いただき、心ゆくまでお楽しみください。各地の情景やさまざまなシーンを、美しく精緻な模型で演出しています。その情景に想い出を重ねていただくとともに、鉄道が私たちの暮らしと密接な関係にあることをご理解いただければ幸いです。

リニア・鉄道館

01 ダイジェスト

1 | 2
3

1．鉄道ジオラマ全景 | 国内最大級の規模を誇る。中央はジオラマの中心、名古屋駅。

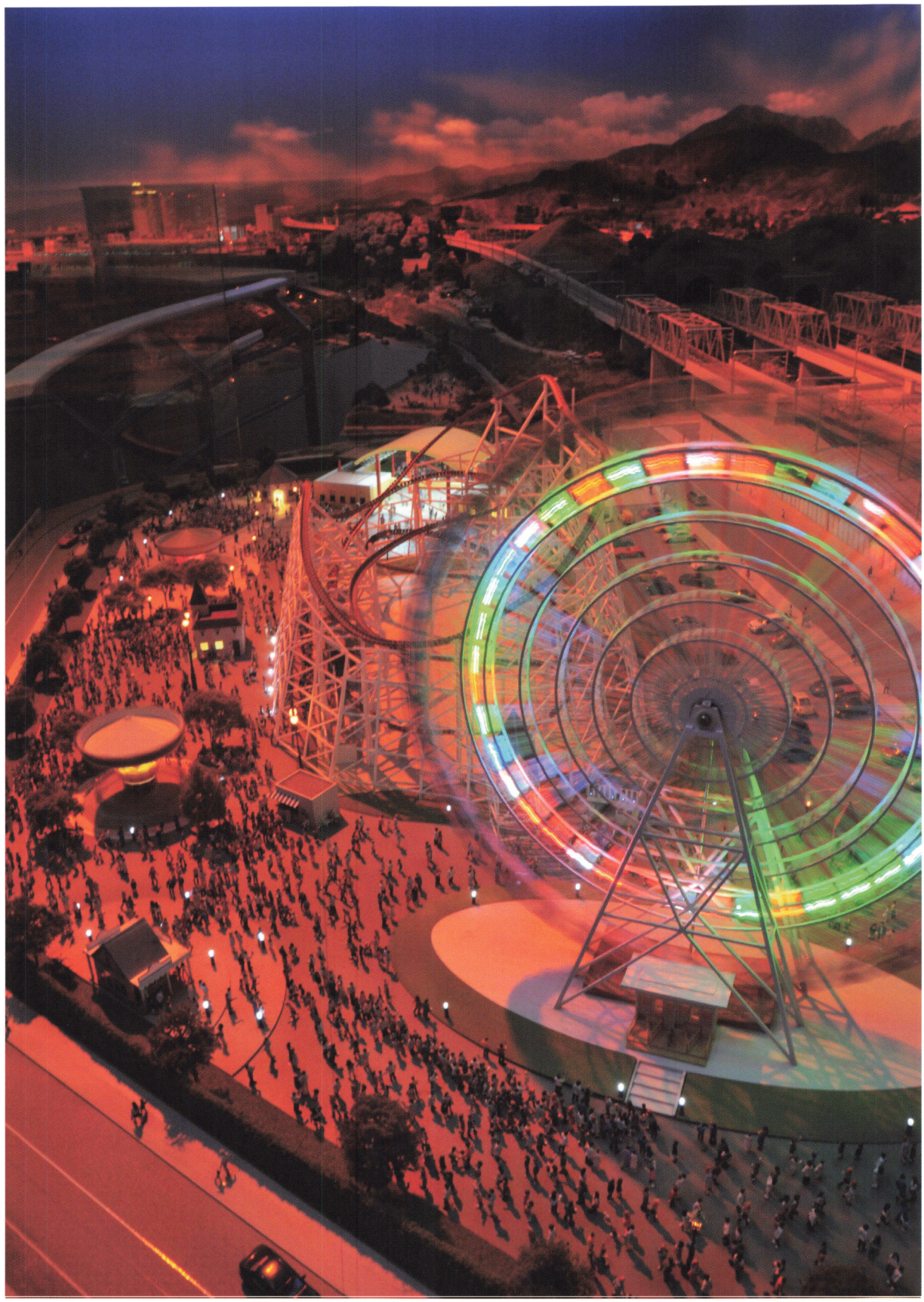
2．大阪・京都・奈良 | 約3千体のフィギュアで埋まる甲子園球場と大阪の街。遠景に京都・奈良。

3．リニア・鉄道館 | 「リニア・鉄道館」の中にある「リニア・鉄道館」。

1 | 2

1．遊園地の夜景 | ライティングと模型演出が作り出す街と鉄道の「24 時間」。

2．月明かりの京都・奈良 | 悠久の歴史を感じるシーン。月に照らされ疾走する新幹線。



1	2
3	

4

1．企画会議　それぞれの夢と想いを胸にアイディアを出し合う。

2．スケール検証　近くのものは大きく、遠くのものは小さく。実際に並べてみて確かめる。

3．レール敷設　設計図から切り出したベース板にレールを敷いていく。

4．工場検査　工場内で分割して製作したパーツをチェックする。

主な仕様

鉄道ジオラマ面積	約 220㎡
路線数／レール長	7路線（山梨リニア実験線、東海道新幹線、東海道線、中央線、関西線、山岳線、環状線）／レール総延長　約 1000m
鉄道模型縮尺	1/80～ 1/87（ＨＯゲージ：線路幅 16.5mm）
車両数／編成数	約 450 両／約 70 編成
制御方式	デジタル運行システム（自主開発）
建物棟数	約 500 棟
フィギュア数	約２万５千体
自動車等	約 300台（うち 10台は自走タイプ）
主な演出	鉄道の 24 時間を 20 分間で演出（照明、映像、音響、模型の連動演出）

鉄道ジオラマ５つの特徴

日本最大級

鉄道ジオラマの面積は約 220㎡で日本最大級です。レール総延長も約 1000m を誇ります。広い空間を生かし、東海道新幹線が走る東京から大阪までを多彩なシーンで表現しています。それぞれのシーンは細部までこだわって精緻に作り込み、離れても近寄っても楽しめるものとなっています。また、ジオラマはガラスではおおわずオープンにすることで、間近に模型を見ることができます。その臨場感をお楽しみください。

デジタル運行システム

このジオラマのために「デジタル運行システム」を自主開発しました。このシステムにより、ひとつの路線に複数の列車を同時に走らせても、それぞれの列車を自在に操作できるようになりました。これは大規模な常設のＨＯゲージジオラマでは日本初の試みです。このシステムは、実際の鉄道のデジタルＡＴＣにならって構築しており、列車同士が近づきすぎると自動でブレーキがかかる仕組みとなっています。また、照明や音響の演出はデジタル運行システムと連動するようにプログラムしています。

多彩なフィギュアシーン

このジオラマでは、単に鉄道模型が走るだけでなく、鉄道のある風景とそこでの暮らしの再現を目指しました。そのため、膨大な数の建物と人物フィギュアを作り込んでいます。特に甲子園球場やロックコンサートの会場のフィギュア群は圧巻です。おとぎ話の主人公や日常の風景に織り込まれたユーモアあふれるシーンも見どころです。鉄道はもちろん、リアルに自動走行するミニカーにもご注目ください。

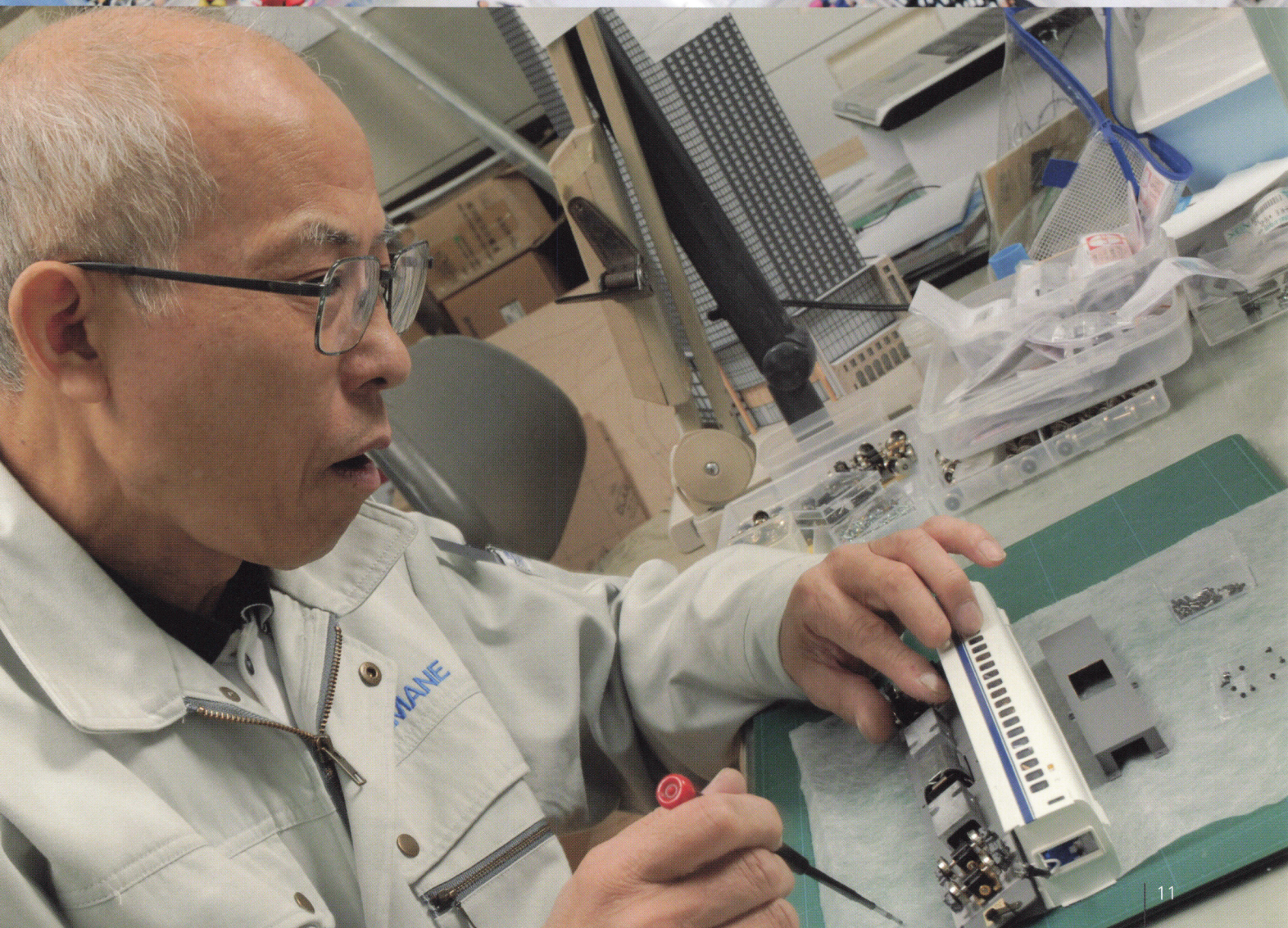
鉄道の 24 時間

多彩なシーン造形が広がるなか、照明や音響の演出を加えて、鉄道の 24 時間を表現しています。早朝の始発から、昼、夕方、夜の情景を描き、最終を見送ったのち、深夜の保守作業を経て再び始発を迎えるまでを、20 分間のプログラムでご覧いただけます。日ごろ目にすることのない保守や点検など、安全で快適な鉄道を支えている「縁の下の力持ち」を描いていることも、このジオラマの特徴のひとつです。

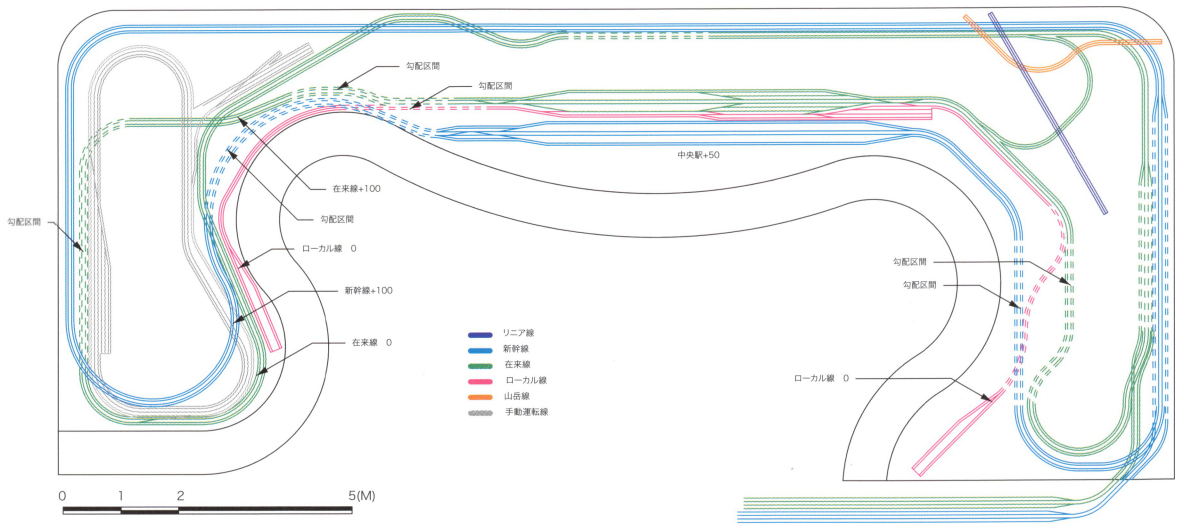
新幹線 16 両フル編成

東海道新幹線の 1 編成は 16 両。だからこそ、ジオラマとはいえ 16 両のフル編成にこだわりました。16 両をつなぐと全長なんと約 5m。その走る姿はなかなか見ごたえがあります。フル編成の新幹線が走っても臨場感がそこなわれないように、路線は十分な長さを確保し、停車する駅のホームも車両に負けない大きなものにしました。16 両の N700 系や 700 系が上りと下りを走行し、イベント時には 0 系、100 系、300 系、そしてドクターイエローも走ります。編成にこだわったのは新幹線だけではありません。在来線の編成も再現しています。

02 創る



設計－日本最大級を目指して



初期の88㎡レイアウト案

コンセプトを固める

「どんな鉄道ジオラマをつくるか」

まずはコンセプトを固め、企画・設計チームの全員が目標を共有化することから始めました。
それは、「日本にこれまでなかったもの」、「大規模でありながら精緻なもの」、「一人でも多くのお客さまに楽しんでいただけるもの」、「鉄道だけでなく鉄道のある風景と人々の営みを描く」、「ＪＲ東海らしい鉄道ジオラマにする」、「鉄道を支える裏方の仕事も伝える」など、これまでにない新しいジオラマを目指す、チャレンジスピリットにあふれたものでした。

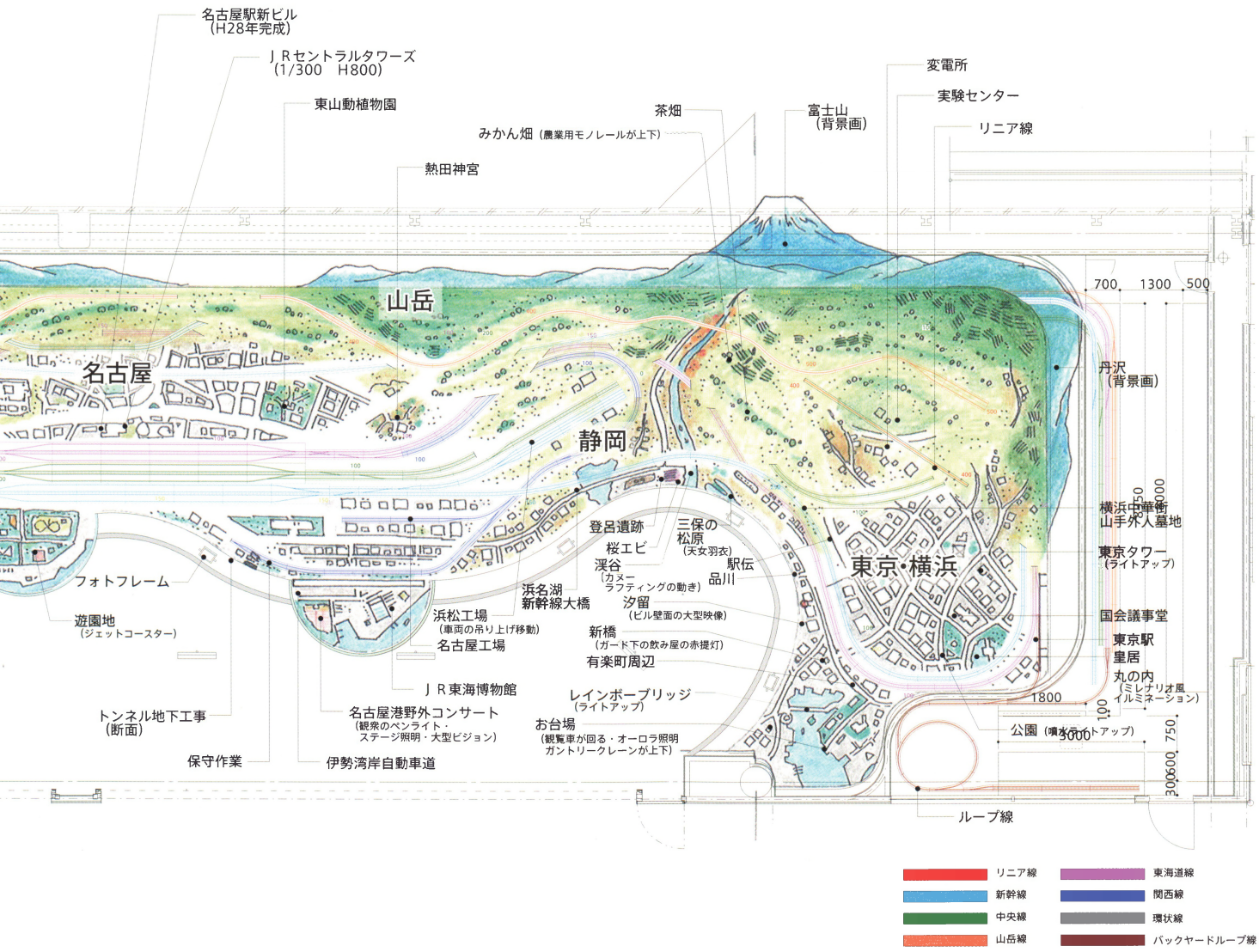
フレームを決める

ジオラマの範囲は東海道新幹線が走る東京－新大阪間とその周辺地域とし、ジオラマの中心にリニア・鉄道館のある名古屋を大きく展開しました。
駅は、名古屋、関西に複数ホームの大規模なものとし、鉄道運行に不可欠な車両工場も、その役割がわかるようにシーンを作っています。
路線は東海道新幹線のほか、5本の在来線（東海道線、中央線、関西線、山岳線、環状線）、さらに山梨リニア実験線も作りました。
車両模型では、新幹線をフル編成の16両で走らせることにこだわる一方で、在来線でも、その路線にふさわしい車両を走らせるように努めました。

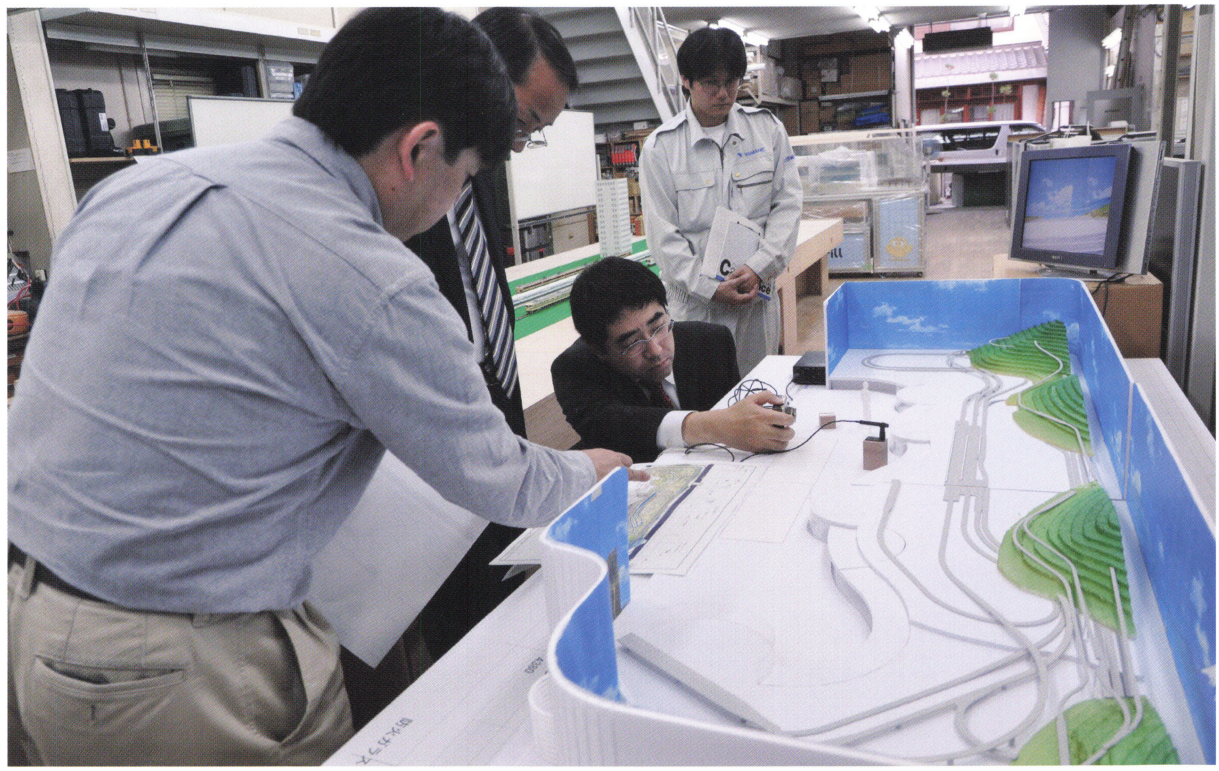
220㎡への拡張

鉄道ジオラマの設計は当初 88㎡の規模を想定してスタートしました。しかし、設計の方向性が徐々に固まり、新幹線を 16 両フル編成で走らせるとなると、その迫力に負けない空間の広がりが求められるようになりました。さらには、沿線の多彩なシーンを効果的に配置して、お客さまに楽しんでいただくためにも余裕のある空間が必要でした。
そこで、大がかりな設計変更に踏み切り、最終的には 3 倍近い約 220㎡にまで拡張しました。こうして、日本最大級のジオラマが誕生したのです。

スタディ模型

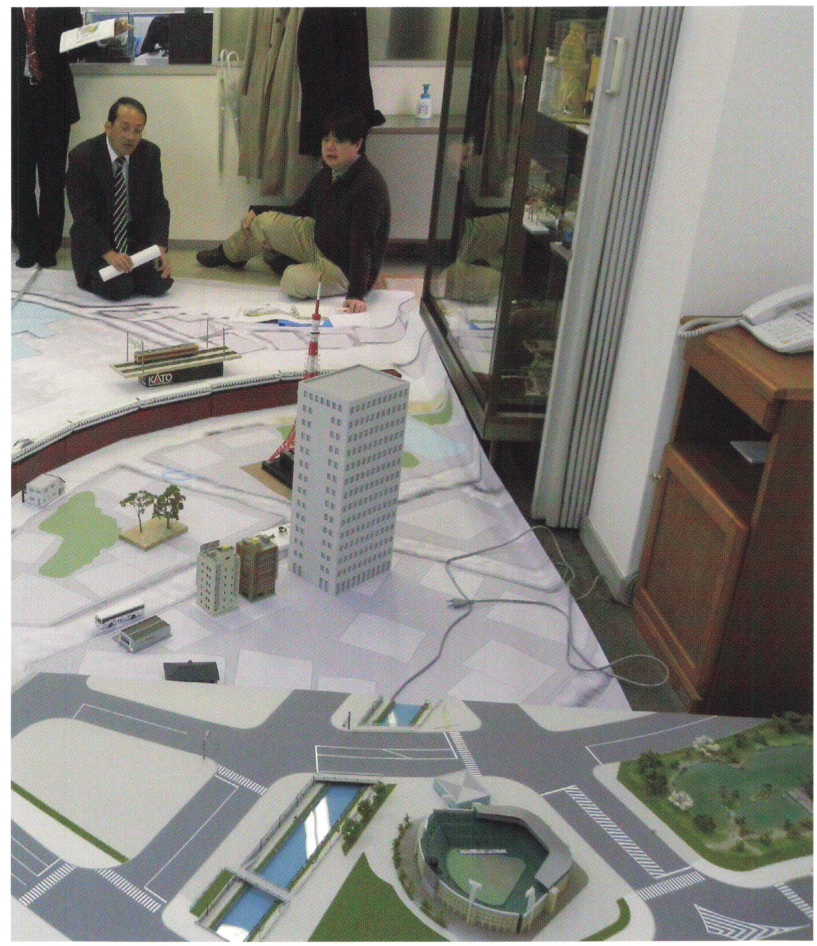


※計画段階のもので、現状とは異なります。



さまざまな検証

設計を進めるにあたって、さまざまな検証が必要でした。
お客さまからどう見えるか、効果的な演出ができるか、技術的に実現可能か、運営上の問題はないか、多岐に渡る検証を重ねていきました。

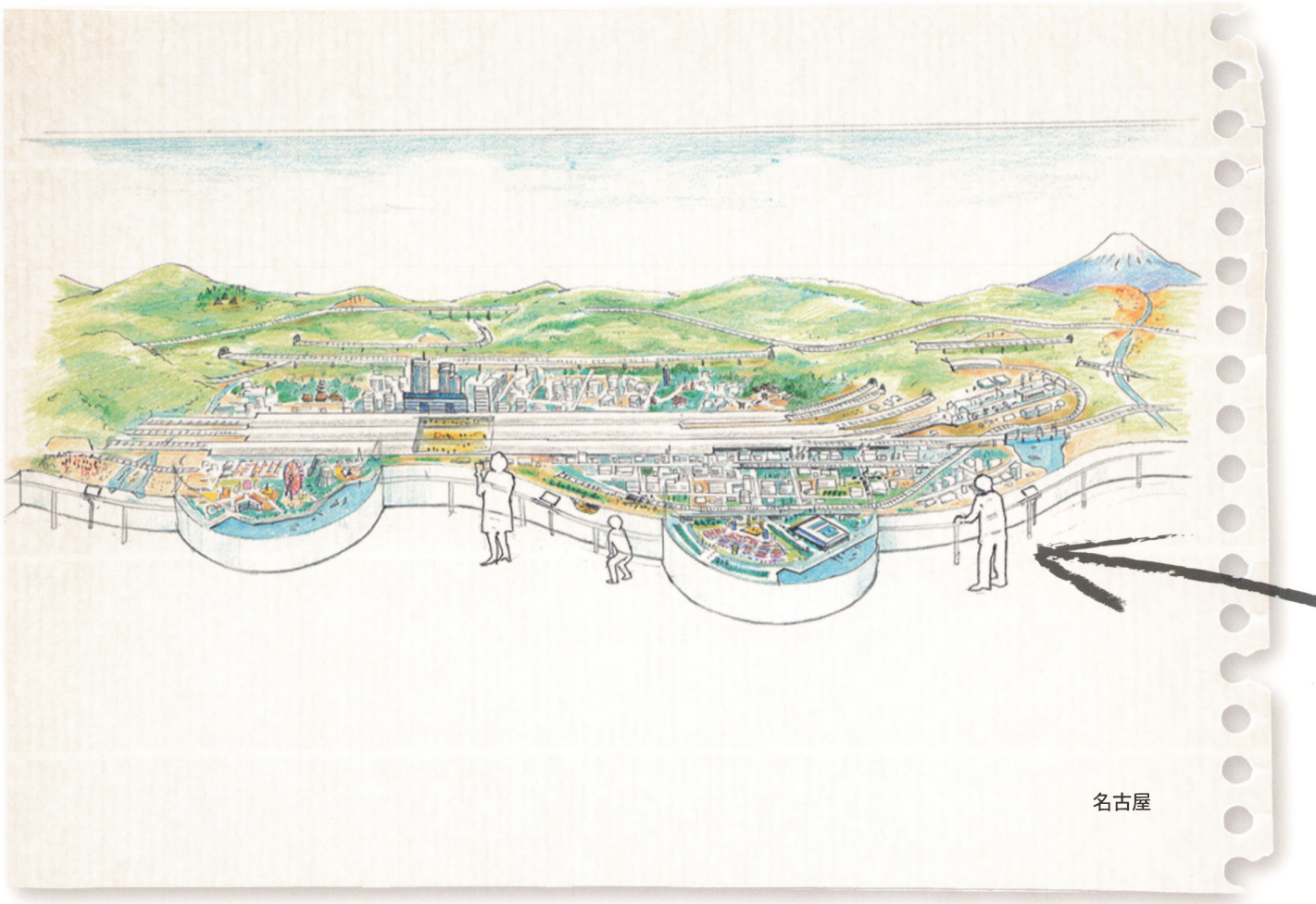


1
2
3

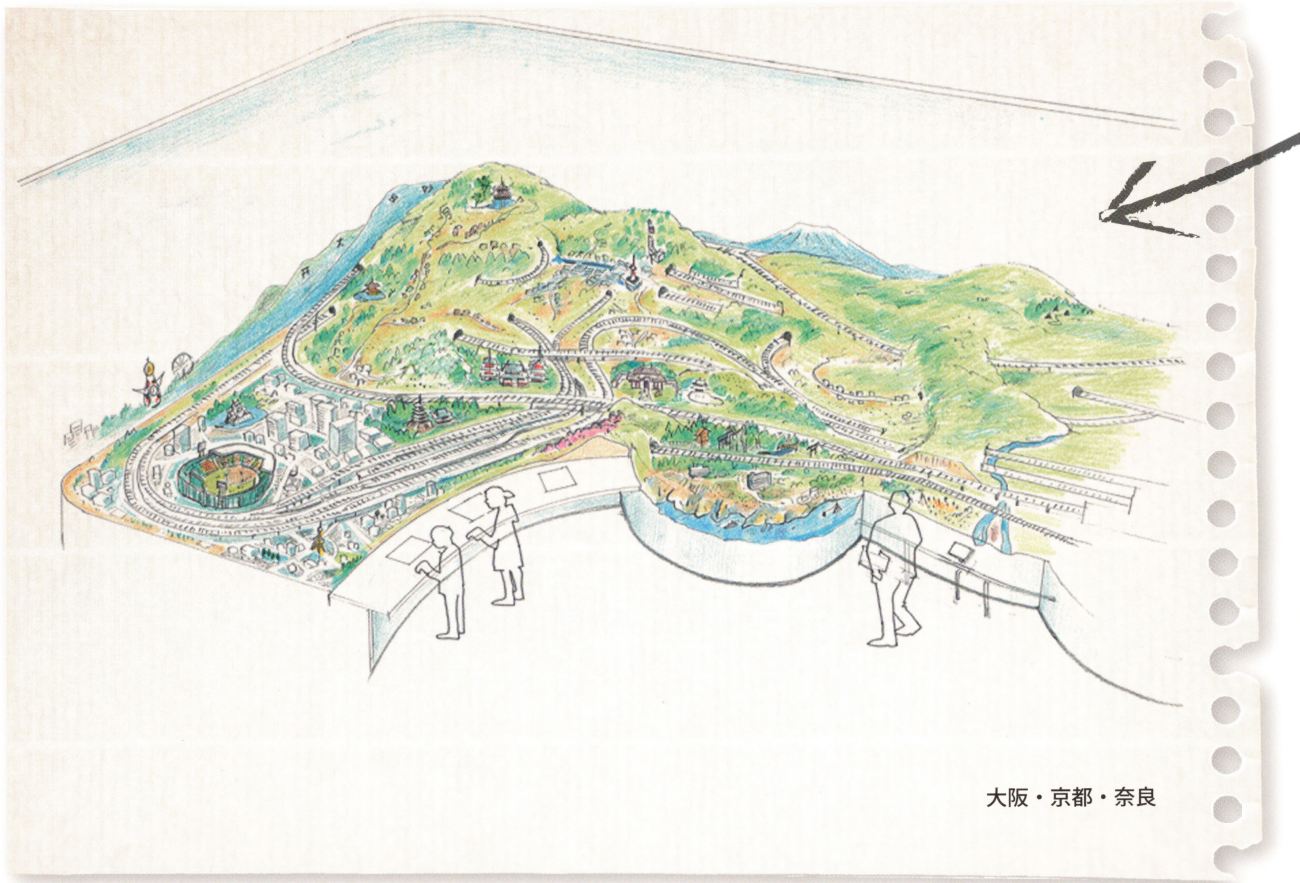
1．スタディ模型検証 | 模型を作り、ＣＣＤカメラでお客さま目線でどう見えるかをテスト。

2．スケール検証 | お客さまの視点からみて違和感のないスケールバランスを見きわめる。

3．勾配走行検証 | 長大編成が長時間走行しても無理のない線路の勾配を決める。

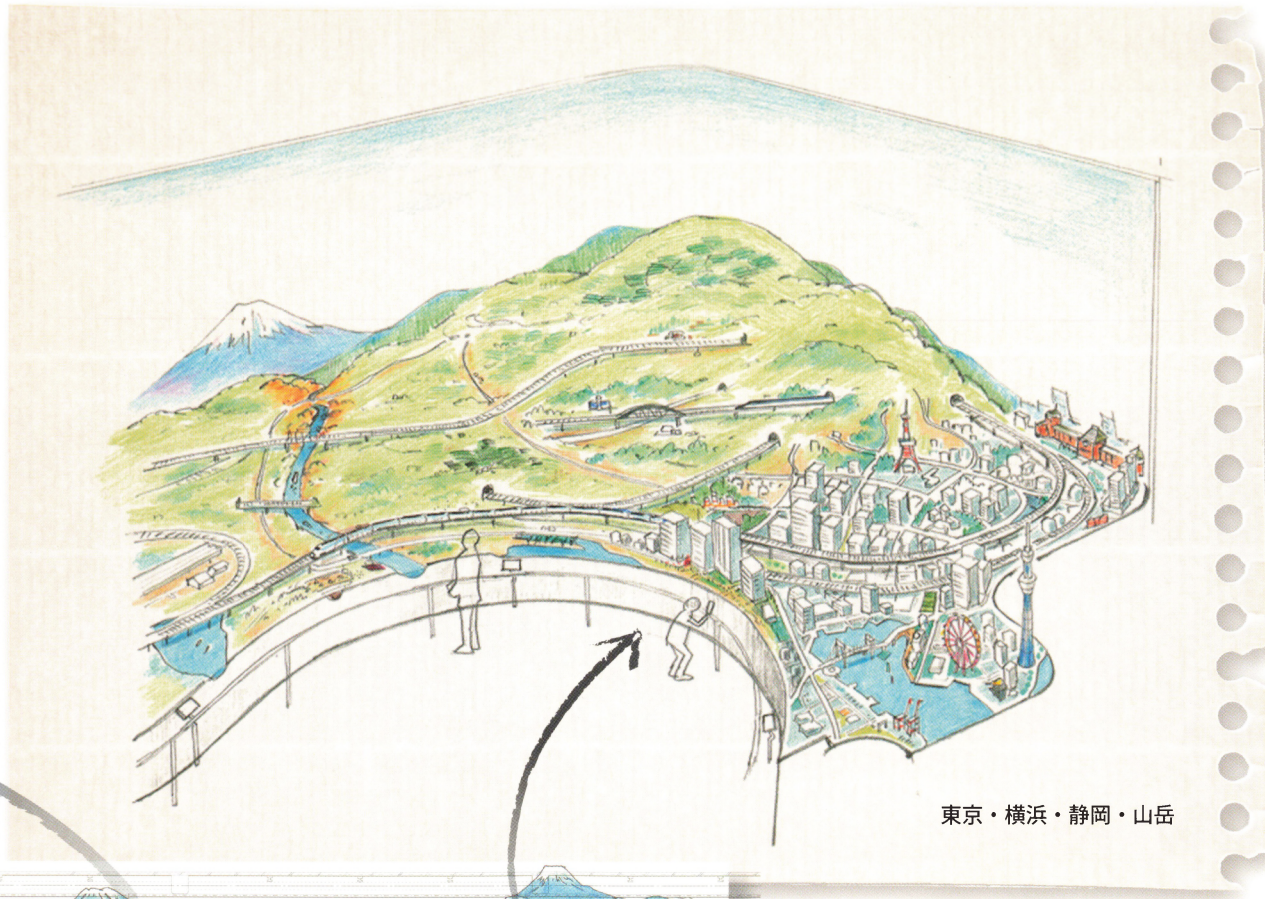


名古屋

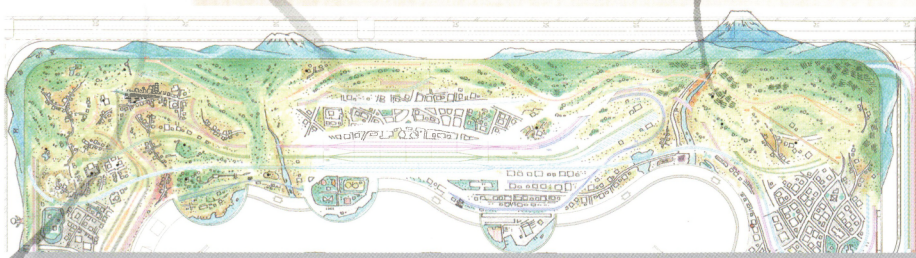


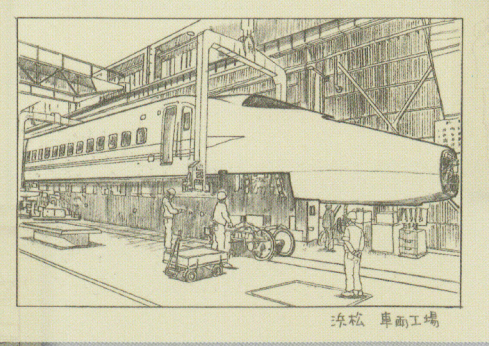
大阪・京都・奈良

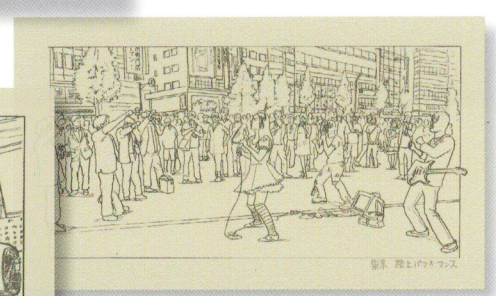
※計画段階のもので、現状とは異なります。



東京・横浜・静岡・山岳







シーンの組み立て

見て楽しいジオラマにするために、関係者全員でシーンのアイディアを出し合いました。そしてさまざまなシーンの中から絞り込み、ひとつひとつ具体的な絵にしていきます。

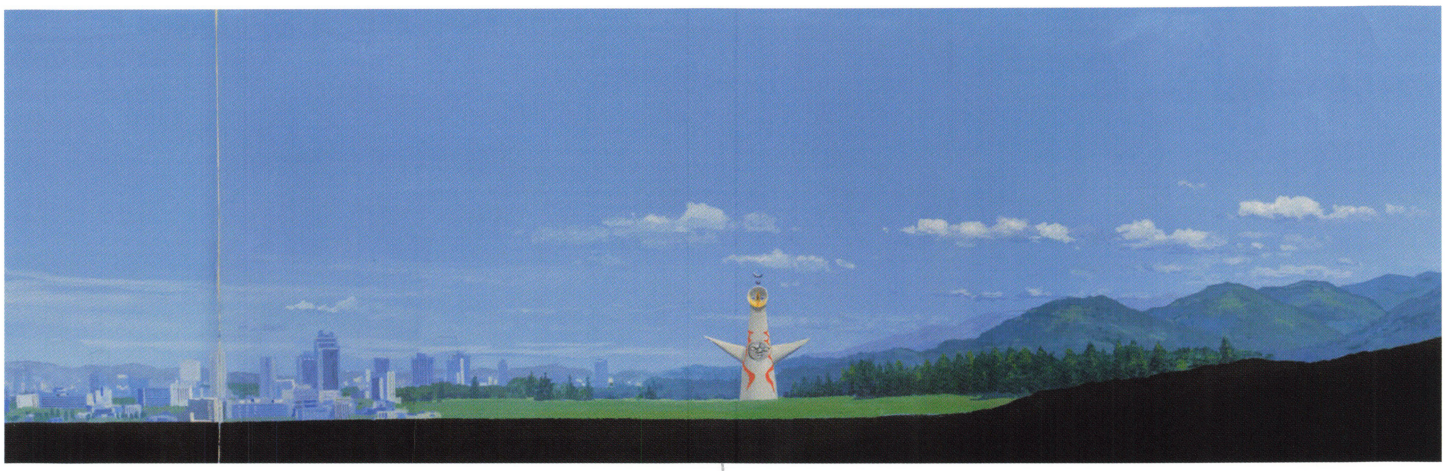
次に、シーンを組み合わせてコーナーにしたときに、立体的にどう見えるか、スケッチを起こして検証するとともに、スタッフ間でイメージを共有します。

シーンとシーンのつながり、バランス、走行する鉄道模型が加わったときの見え方など、スケッチを起こすことで気づくことがたくさんあるのです。

背景画の下絵

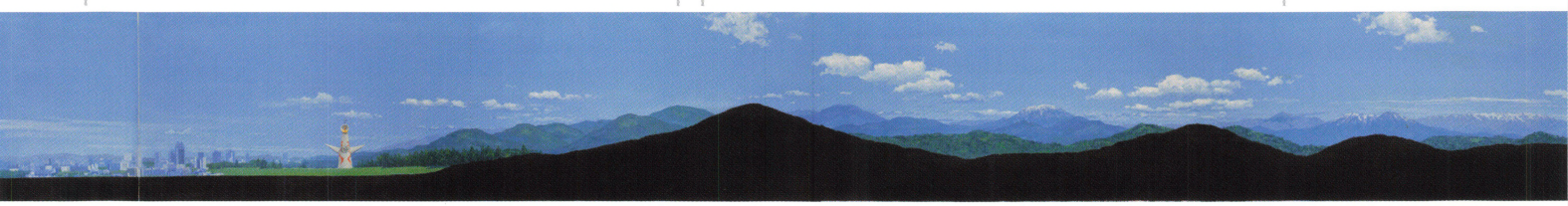
ジオラマは、目の前に広がる光景を立体的な模型で表現し、遠い景色を背景画として壁に描きます。この背景画はジオラマ空間を広げるとともに遠近感を強調する重要な役割をにないます。車窓から見える富士山をはじめとする美しい山並みは東海道新幹線の魅力のひとつであり、ジオラマに欠かせない要素でもあります。この背景画の製作には、雲を描かせたら日本一といわれる映画、舞台等の背景画

太陽の塔



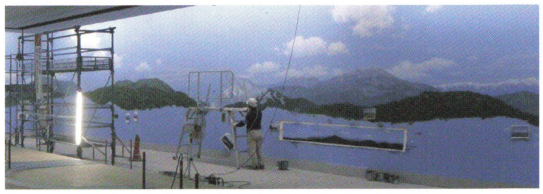
関西

東海



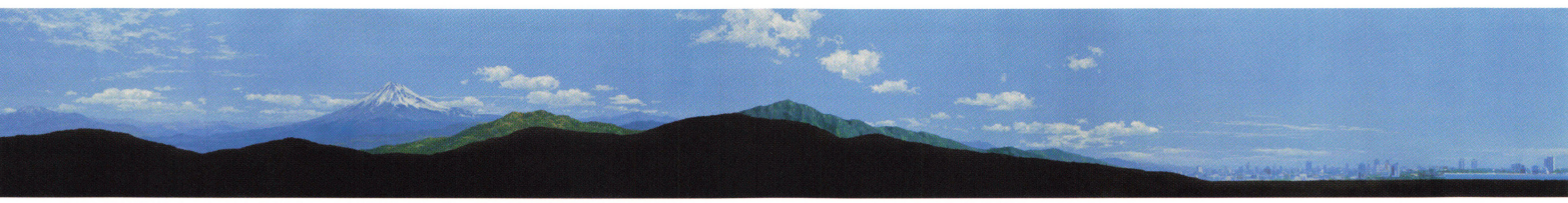
乗鞍岳　御岳山　飛騨山脈　恵那山

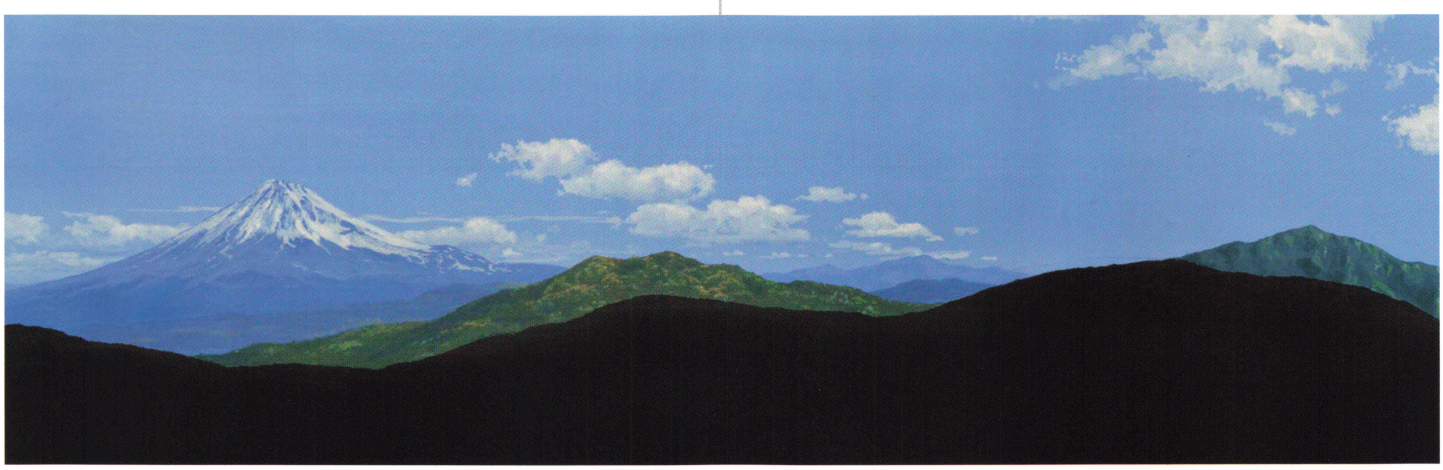
の専門家「アトリエ雲」が担当しました。設計段階では壁画をイメージしながら下絵を作成します。模型の形状とバランスをとりながら何度かの試行錯誤を経て描かれたのがこの下絵です。下絵とはいえ、そのサイズは縦 40cm、横 6.5m に及びます。絵の下側の黒いシルエットはジオラマ模型が重なる部分です。



伊吹山

関東





富士山

丹沢山地

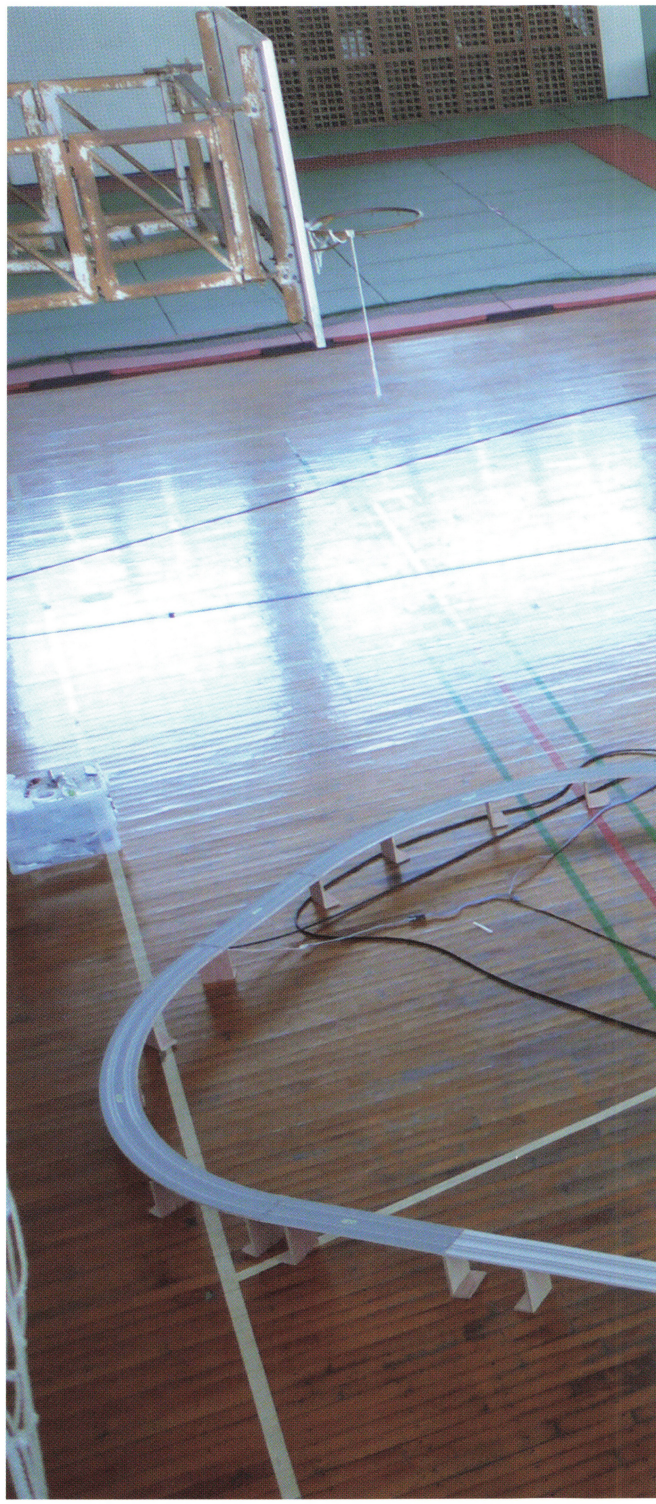
※計画段階のもので、現状とは異なります。

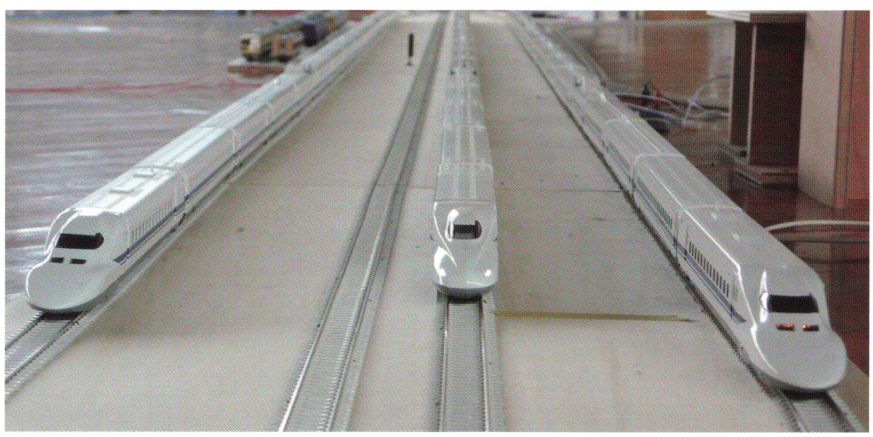
走行テスト

鉄道ジオラマの主役、鉄道模型の設計も着々と進めていきました。デジタル運行システムの試作、車両模型のカスタマイズ方法や、レールレイアウトの検討などです。レールレイアウトについては20案以上を作り、苦労の末ようやく最終案に固めていきました。
そして、技術的な検証の集大成となる、実物大コースでの走行テストの日を迎えました。

模型のプロもこれだけの規模の鉄道ジオラマは経験がありません。工場での実験は重ねていても実際のコースで走らせてみないとわからないことがたくさんありました。
16両フル編成の新幹線、5mにも及ぶ長大な編成はちゃんと走ってくれるのか。1路線に2編成、3編成を同時に走らせてもうまくコントロールできるのか。自主開発したデジタル運行システムはうまく動作するのか。長時間でも安定して走行してくれるのか。車載カメラによるリアルタイム映像の送受信はうまくいくのか。

テストは猛暑の中、JR東海の施設で実施しました。期待と不安の中、一周約80mのテストコースを組み上げ、いよいよテストランを開始。あれっ、動かない。何が原因か、思いつく要因をひとつずつつぶしていく。長い試行錯誤の末、ようやく動いてくれた！
7日間にわたる走行テストでたくさんの貴重なデータを得ることができました。特に、デジタル運行システムの核となるDCC（デジタルコマンドコントロール）チップの特性や電力供給の課題などが明らかとなり、この経験をベースに実際の製作へと進むことができました。





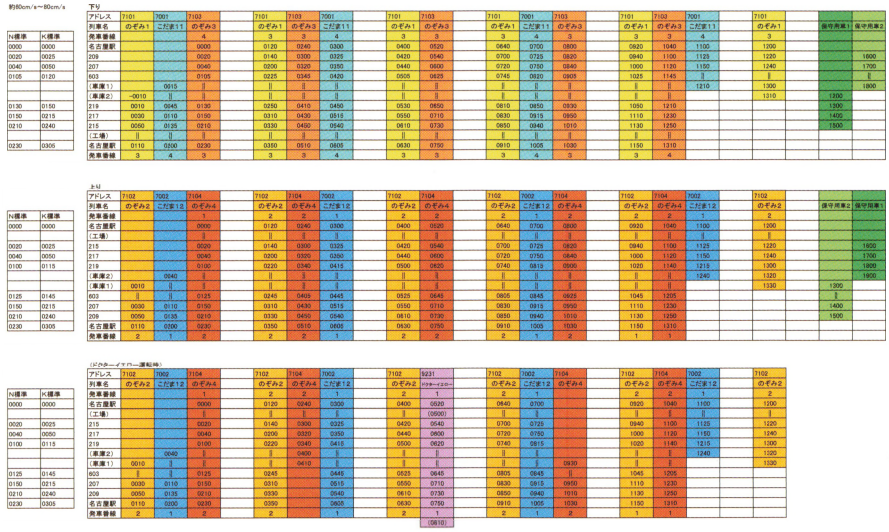
フル編成の新幹線

スタッフの多くも走行テストで初めて見た16両編成の車両模型。

走行テスト

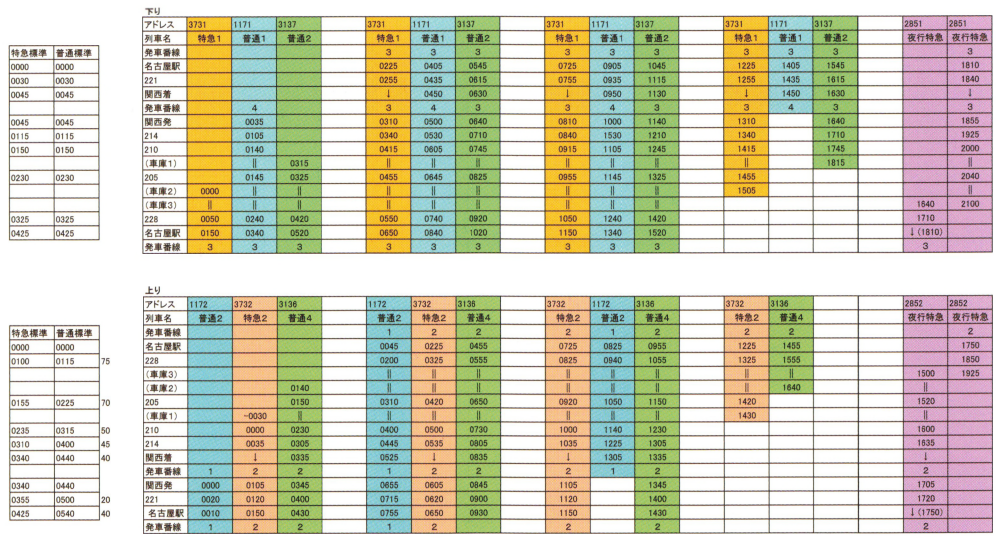
猛暑のなか、JR東海の施設で７日間かけて行われた。

新幹線の運行ダイヤ



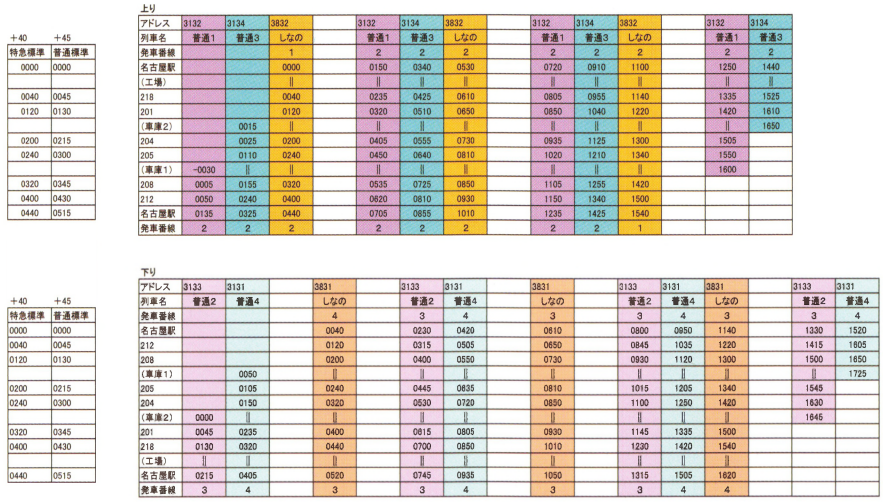
上り下り３編成ずつの運行ダイヤ。
ドクターイエロー運転時ダイヤ。

東海道線の運行ダイヤ



上り下りで、特急２編成、普通４編成、
寝台特急２編成のダイヤ。

中央線の運行ダイヤ



上り下りで、特急２編成、普通４編成
のダイヤ。

鉄道模型のダイヤと演出チャート

模型とはいえ本物さながらに複雑な運行となる大規模ジオラマ。その運行プログラムのベースには精緻なダイヤが必要です。このダイヤ作成はＪＲ東海の担当者にゆだねられました。実際の鉄道運行管理に携わっていたプロフェッショナルです。
この通称「Ｆダイヤ」に基づいて列車の運行プログラムを組み上げ、さらに、列車運行に合わせて照明や音響などのさまざまな演出をプログラム化していきました。
こうして、鉄道の24時間を20分に凝縮した一編のストーリーが誕生したのです。

列車運行の見どころは名古屋らしさ。名古屋駅に新幹線が滑り込むと同時に反対側のホームから新幹線が出発する場面を再現。次から次へと、到着と出発を繰り返します。スタッフ間で「名古屋アクション」と呼ばれるこの動きは、デジタル運行システムなしでは実現しえないものでした。

運行プログラムと連動する演出はライティング、模型の動き、効果音、アナウンスの音声などいろいろな要素があります。これらがタイミングよく動作してこそ効果的な演出となります。
そのベストのタイミングを細かく決めた演出タイムチャートを作りました。お客さまに楽しんでいただける演出を考え、実現していく作業は苦労もありましたが楽しいものでした。

	項目	演出内容
鉄道	新幹線	上下線各2編成
	新幹線保守車両	上：マルタイ・ＮＢＳ　下：スペノ・確認車
	東海道線	上下線各3編成＋夜行上下線各1編成
	中央線	上下線各3編成
	高山線	1：2の交互運転
	関西線	1：1の折り返し運転＋直通1編成
	関西線保守車両	レール運搬車
エリア全体	建物照明　A	ＬＥＤ照明
	建物照明　B	ＬＥＤ照明
	照明　C（街灯・航空障害灯）	ＬＥＤ照明・電球
関東エリア	パトカー点滅	ＬＥＤ照明
	新機　ビル壁面映像	液晶モニター
	火事の明かり・煙	ＬＥＤ照明・スモークマシン
	火事の換気ファン	ＤＣファン
	リニア駆動	モーター駆動
	みかん畑のモノレール	モーター駆動
東海エリア	工場照明（名古屋・浜松）	ＬＥＤ照明
	踏切警報機（開閉式）	ＬＥＤ照明
	踏切遮断機（開閉式）	モーター駆動
	踏切警報機（閉鎖式）	ＬＥＤ照明
	保守作業灯	ＬＥＤ照明
	浜松工場内リフトジャッキアップ	モーター駆動
	保線作業　メカ駆動	モーター駆動
	テーマパーク　照明・メカ駆動	照明・モーター駆動
	コンサート　照明・メカ駆動	照明・モーター駆動
関西エリア	野球場　照明	ＬＥＤ照明
	野球場　スコアボード映像	液晶モニター
	心斎橋　ネオン照明	ＬＥＤ照明
	大文字焼	ＬＥＤ照明
	ケーブルカー	モーター駆動
その他	地底人	ＬＥＤ照明
	シールドマシン	モーター駆動
	町工場　溶接光	ＬＥＤ照明

演出チャート

列車運行とシンクロした演出タイミングを記したチャート。

※計画段階のもので、現状とは異なります。

製作－ひとつひとつ手でつくる

完成を目指す

約２年間の企画・設計期間を経て、いよいよ製作段階に入りました。オープンまでの１年間、詳細な製作スケジュールを立て、着実に完成を目指しました。
とはいえ、モノづくりはやってみなければわからないことがたくさんあります。設計図どおりにいかず、何度も図面を修正せざるを得ませんでした。
そんななかでも当初掲げたコンセプトの実現に向け、ＪＲ東海の担当者とのひんぱんな打ち合わせと確認を繰り返し、スタッフ全員が方向性を共有しながら努力を続けました。

工場製作

製作段階の前半は工場での製作です。主に大阪のヤマネ本社でパーツのひとつひとつを手作りしました。
模型のベースとなる地形の製作、レールの敷設、建物や橋などのストラクチャーの製作、フィギュアの製作、車両の改造、デジタル運行システムの改良など、多くのスタッフが並行して作業を進めました。
工場から現場に搬送して設置できるように、ジオラマをトラックに載せられるサイズのピースに分け、その単位で製作していきました。現場に設置された姿を想像しながら、根気のいる地道な作業を何カ月も続けました。

1
2
3
4
5

1．ホームと車両模型 | 6面12線の名古屋駅ホームの試作。

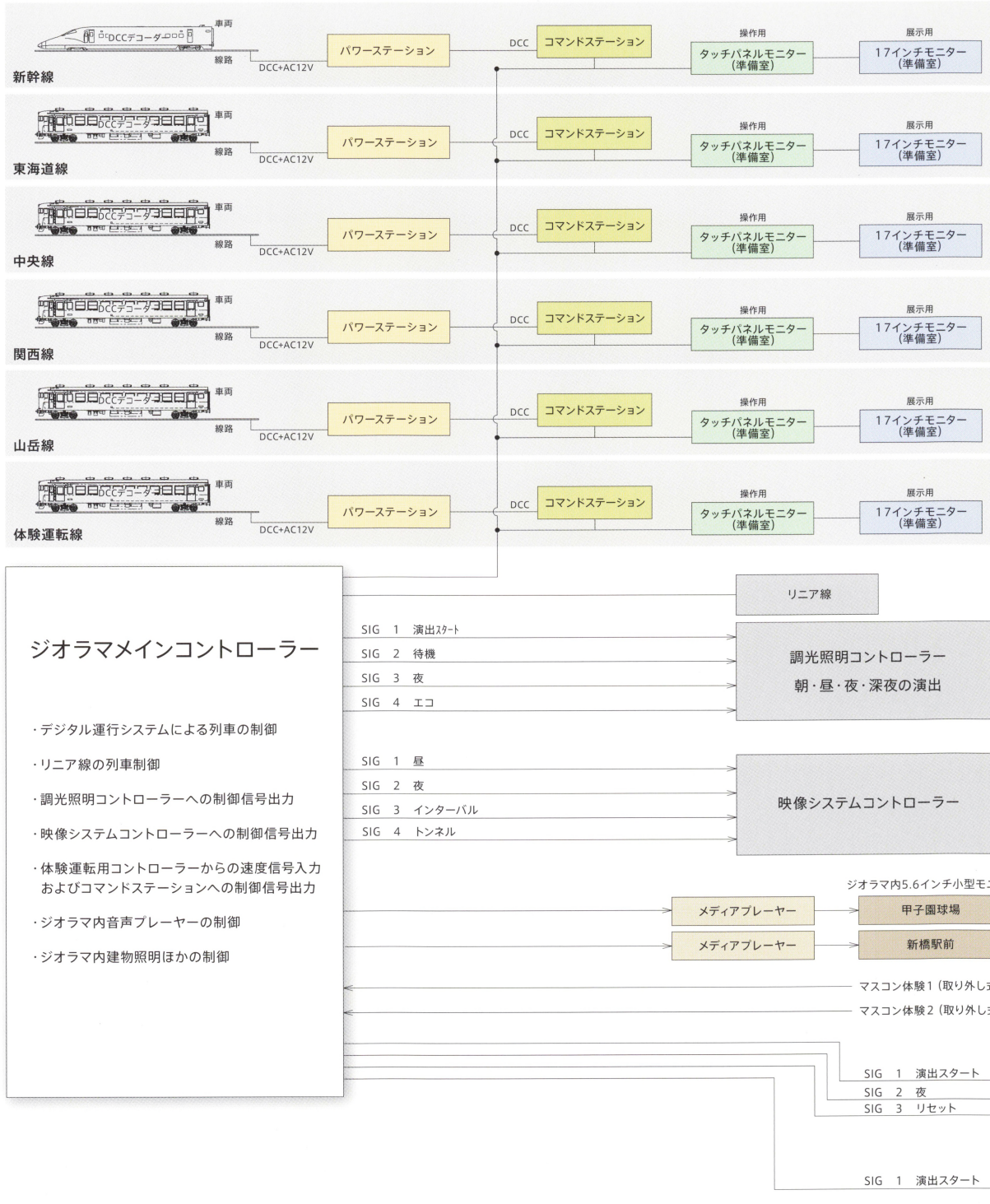
2．フィギュア | ロックコンサートのダンサーと伊勢の海女。

3．工場打ち合わせ | 1/20模型を囲んで照明演出について議論する。

4．サクラを植える | 東京タワーのまわりに春の景色を作っていく。

5．小さな駅 | 山岳線の小さな駅。見えにくい場所にある模型でも丹精込めて。

YAMANE

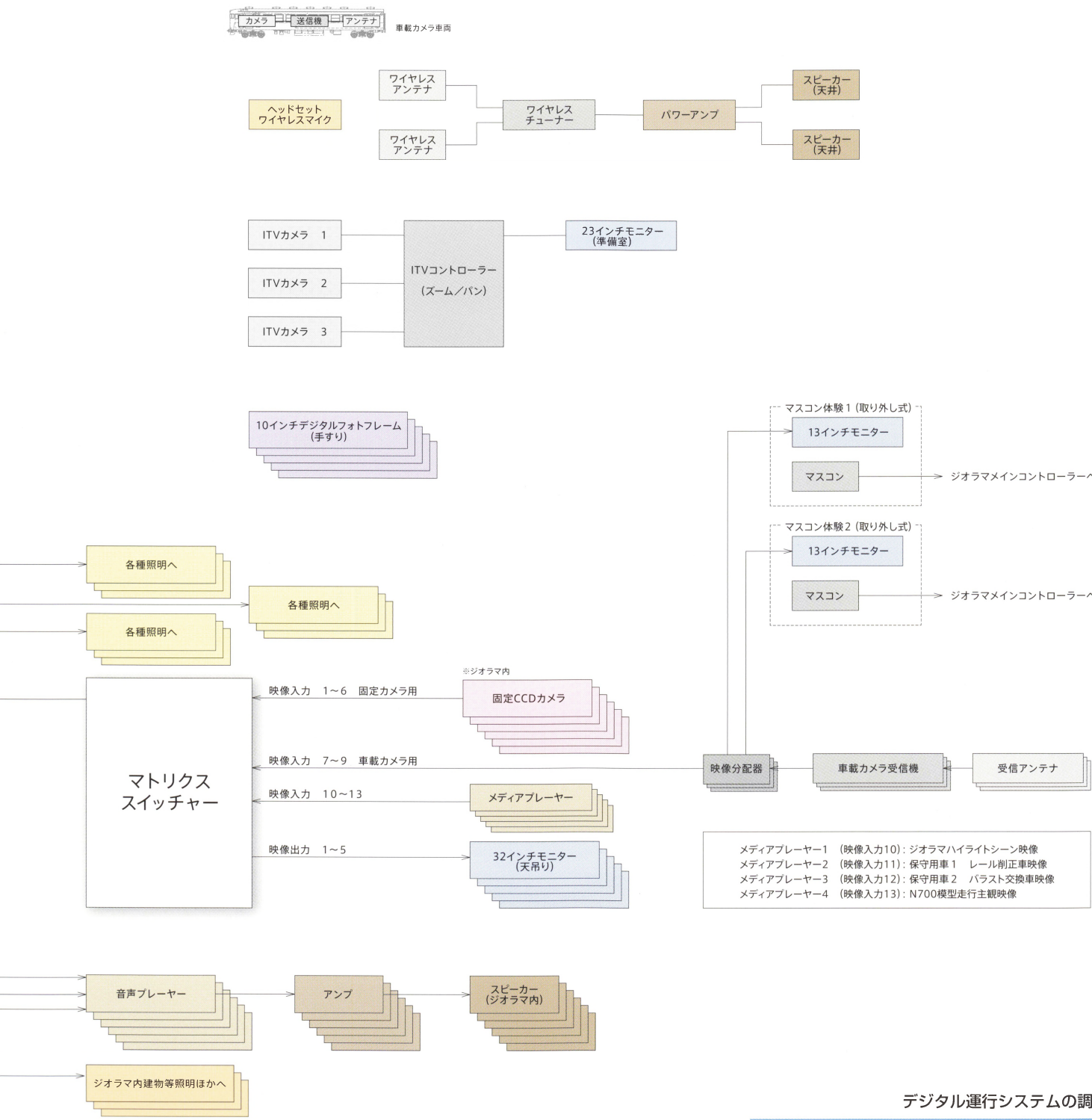


デジタル運行システムモニター

デジタル運行システム

鉄道ジオラマではデジタル運行システムを採用することにしました。常設の大規模ジオラマでは日本で初めての取り組みです。

デジタル運行システムのメリットは、編成ごとに列車の運行をコントロールできるため、ひとつの路線に複数の編成を走らせられることです。一方で、コントロールを誤れば、追突のリスクもあります。しかし、このシステムの導入なしにはひんぱんに新幹線が発着する「名古屋アクション」の表現は



できません。リアリティのある列車の動きがつくりだす次世代のジオラマを目指して、ほぼ一からシステムを自主開発していきました。

デジタル運行システムの核になるのはＤＣＣ(デジタルコマンドコントロール)。数カ国で作られているＤＣＣチップをテストして今回のシステムに最適なものを採用し、列車に搭載しました。

制御プログラムは、デジタルＡＴＣ(自動列車制御装置)、ＣＴＣ(列車集中制御装置)の機能を模擬したもので、本物さながらの運転が可能なものとなっています。

また、デジタル運行システムは演出プログラムの指揮者の役割も果たします。列車の運行に合わせて制御信号を出力し、照明演出、映像上映、模型の動き、アナウンス、効果音などがスタートします。これによりジオラマ世界をより楽しくリアルなものにしています。

デジタル運行システムの調整

いざ現場へ

1	3	
2	4	5

リニア・鉄道館の建物もでき上がり、鉄道ジオラマを設置するスペースが現れました。いよいよ現場製作の始まりです。

現場での作業は背景画を描くことから始めました。映画や舞台の専門家が美しい山並みやリアルな雲を描きだし、みるみる空間に広がりが生まれます。

続いて、架台と呼ばれる土台の組み立てです。点検口や配線のルートを確保しながら木工で組み立てていきます。架台の下にはメンテナンスのときにスタッフが入れる空間も確保しています。

工場でパーツ単位で作られてきた地形模型を搬入し、山側から順に架台の上に設置していきます。地形は軽くて丈夫なＦＲＰ（繊維強化プラスチック）で作られ、内部は空洞になっていて、そこに待避線やミニカーの基地を設けています。

1. 基本造作に着手 | お客さま通路と模型を仕切る手すりとガラスを立てるための土台を設置。

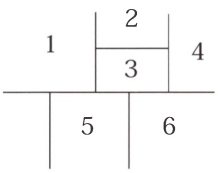
2. 建築工事 | 建築工事の最終段階。天井照明の取り付けのために足場が組まれている。

3. 背景画を描く | 何もなかった壁から雲のたなびく山岳が出現する。

4. 架台を組む | 模型のベースとなる架台を木工でつくる。架台の下には人が入れる。

5. 道路を貼る | 道路部分にグレーのシートを貼る。

地形パーツが組み上がるとグっとジオラマらしくなります。そこにレールパーツを取り付けていきます。歪みのないよう、勾配に注意しながら慎重に取り付けます。
続いて、建物、橋などのストラクチャーを奥から設置。建物の中にはLED照明が埋まっており、その電源の配線も同時に行っていきます。
一方で、開通した路線から試運転を始めます。微妙な線路の歪みから当初は車両模型が脱線することも。
試運転のかたわら、仕上げ作業を進めます。膨大な数のフィギュアを配置し、樹木を植え付け、線路に架線を張り、道路にミニカーを配置していきます。ジオラマにドラマが生まれる瞬間です。作り手として苦労が報われていくときでもあります。



1．川をつくる | 木曽三川（木曽川、長良川、揖斐川）の河口近くを彩色。

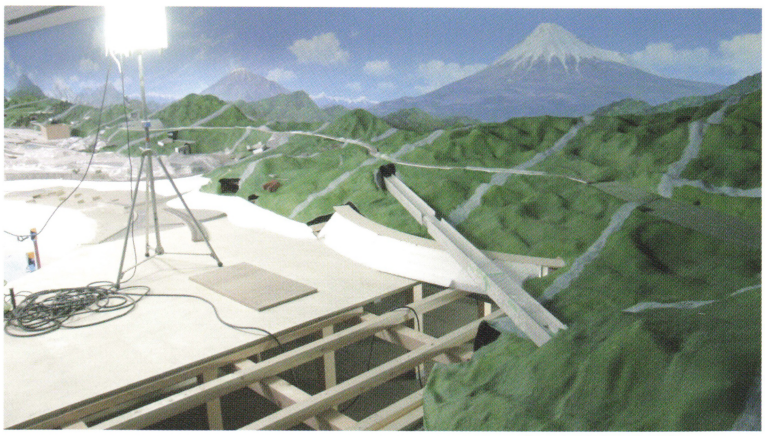
2．山をつなぐ | FRPで作った地形ピースを現場でつなぐ。

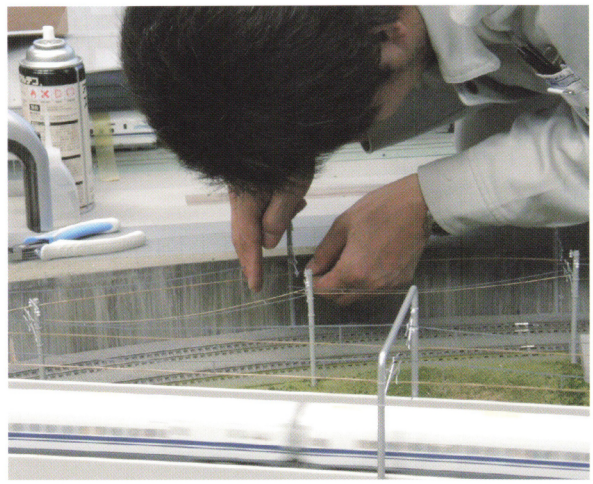
3．フィギュアを並べる | コンサート会場近くにフィギュアを固定していく。腰にも負担。

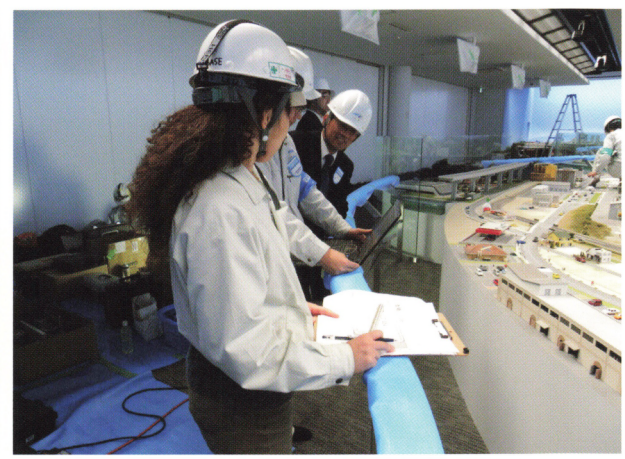
4．ＪＲセントラルタワーズ | 1/200で作った名古屋駅のシンボル。窓清掃ゴンドラを取り付ける。

5．列車位置センサーの設置 | 列車の通過を感知するセンサーを線路に埋め込む。

6．伊勢神宮の玉砂利 | 参道や社殿の周囲に白い玉砂利を敷きつめる。







1	2
3	
4	5

1. 線路に架線を取り付ける　省略されがちな架線も精緻に再現。グッとリアリティが増す。

2. 配車を待つミニカー　街や道路の造形に、表情と動きを与えるミニカーたち。

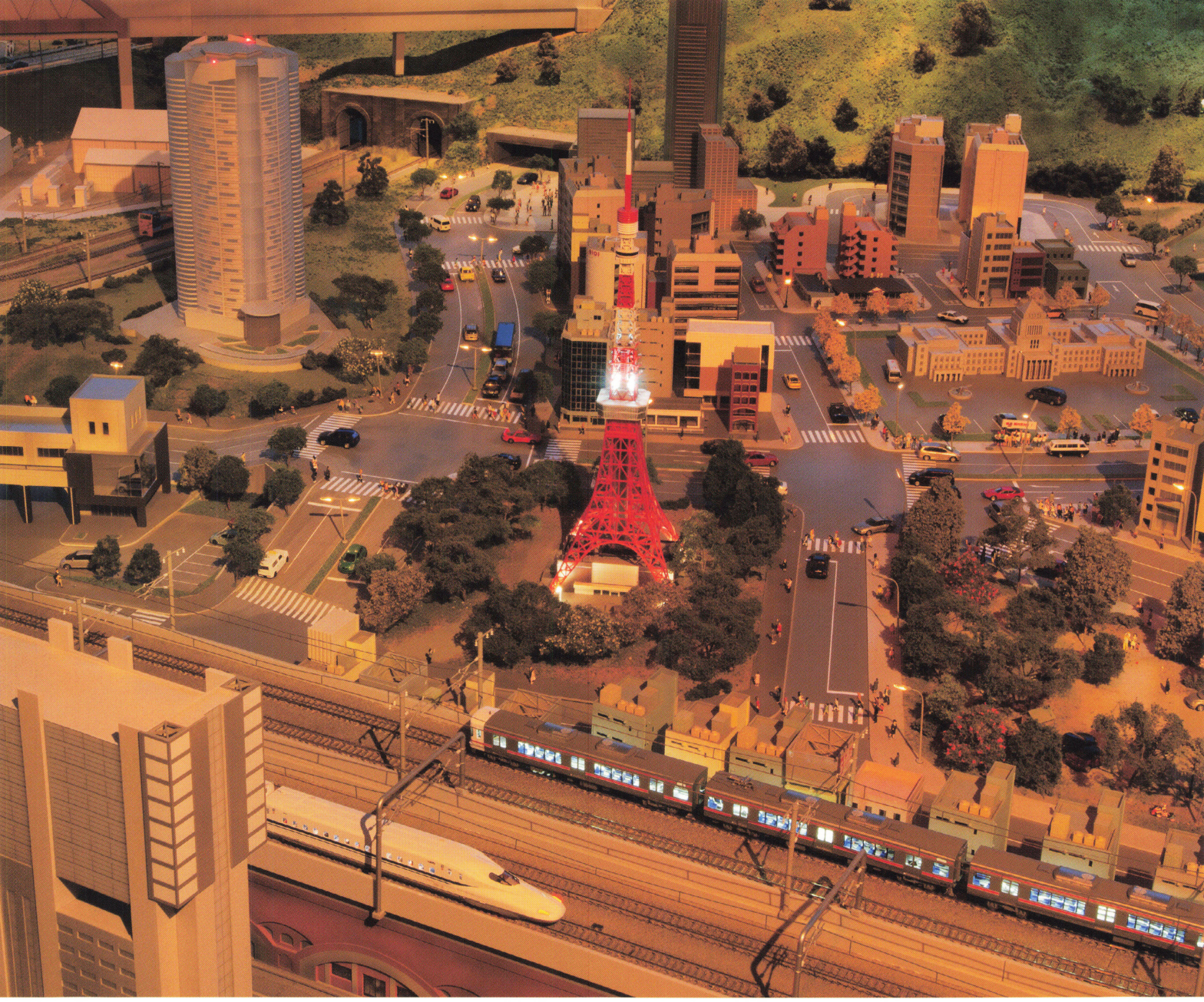
3. 地形模型の仕上げ　地形と地形、地形と線路の間のギャップを埋める。

4. 現場での打ち合わせ　次々と生じてくる課題をその場で議論して解決していく。

5. 現場確認　ねらいどおりのものとなっているか、多角的なチェックを繰り返す。

東京　横浜

TOKYO , YOKOHAMA



1. たそがれ時の東京 ｜ ライトアップされた東京タワー。

2. 100 系新幹線｜ イベント時には100系新幹線も走る。

3. 東京都心部エリア ｜ 東京タワー、国会議事堂、六本木ヒルズなど。

4. 新橋駅前 | サラリーマンの聖地。今日もテレビのインタビュー撮り。

6. 横浜中華街 | 中華街のシンボル、牌楼（門）。モデルは善隣門。

8. 緊急事態 | 駆けつける消防車と救急車。

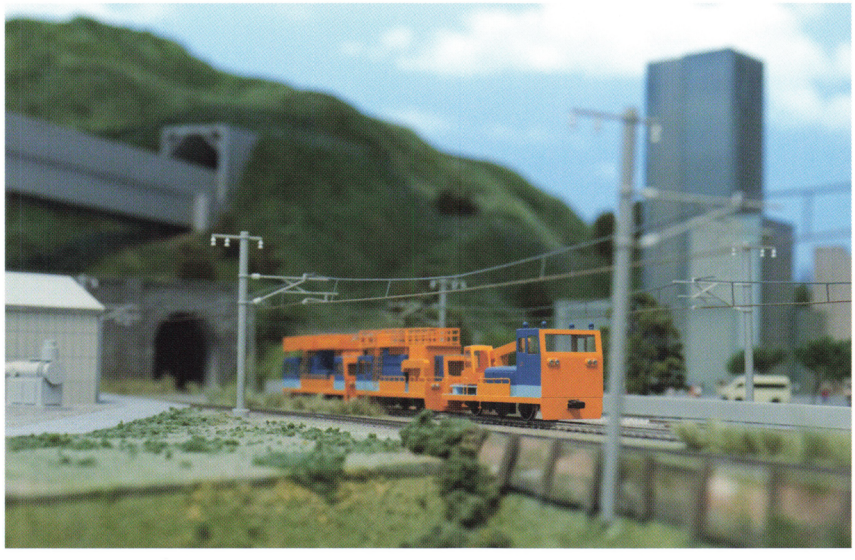
5. 東京駅丸の内駅舎 | 復原工事完了後の姿を先取り。

7. 横浜中華街 | 肉まんを求める人だかり。

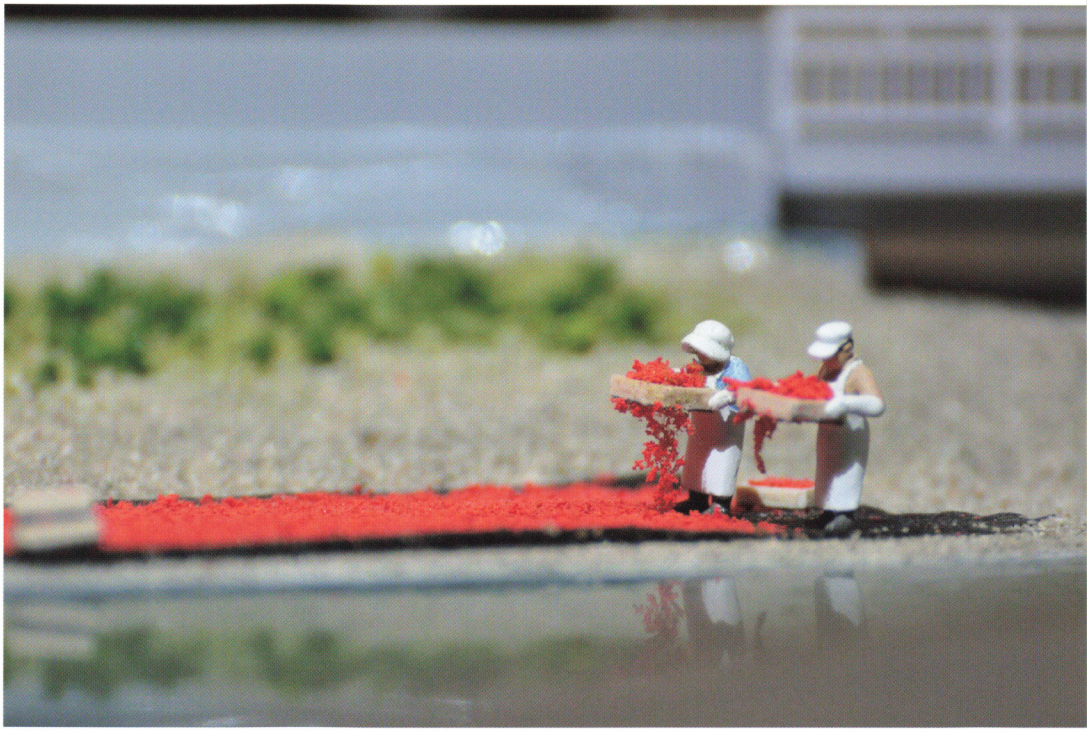
9. 箱根駅伝 | 母校の伝統と誇りをかけてタスキをつなぐ。

静岡　山岳

SHIZUOKA , Mountainous Area



1	4
2	
3	5 6



1．新幹線と東海道線 | 並走する新幹線（100 系）と東海道線（113 系）の上り電車。

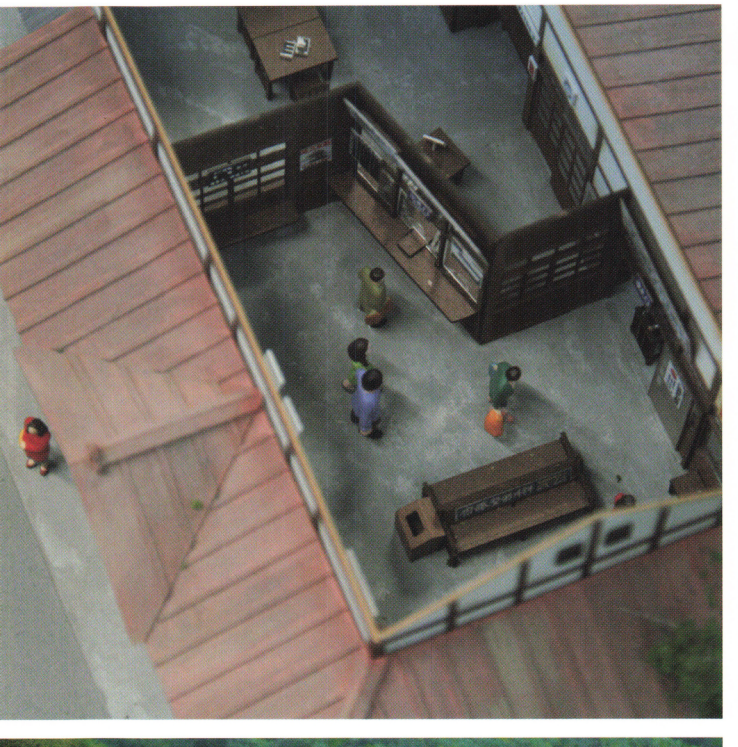
2．茶摘み | 「なつもちーかづーく、はーちじゅうはちやー」

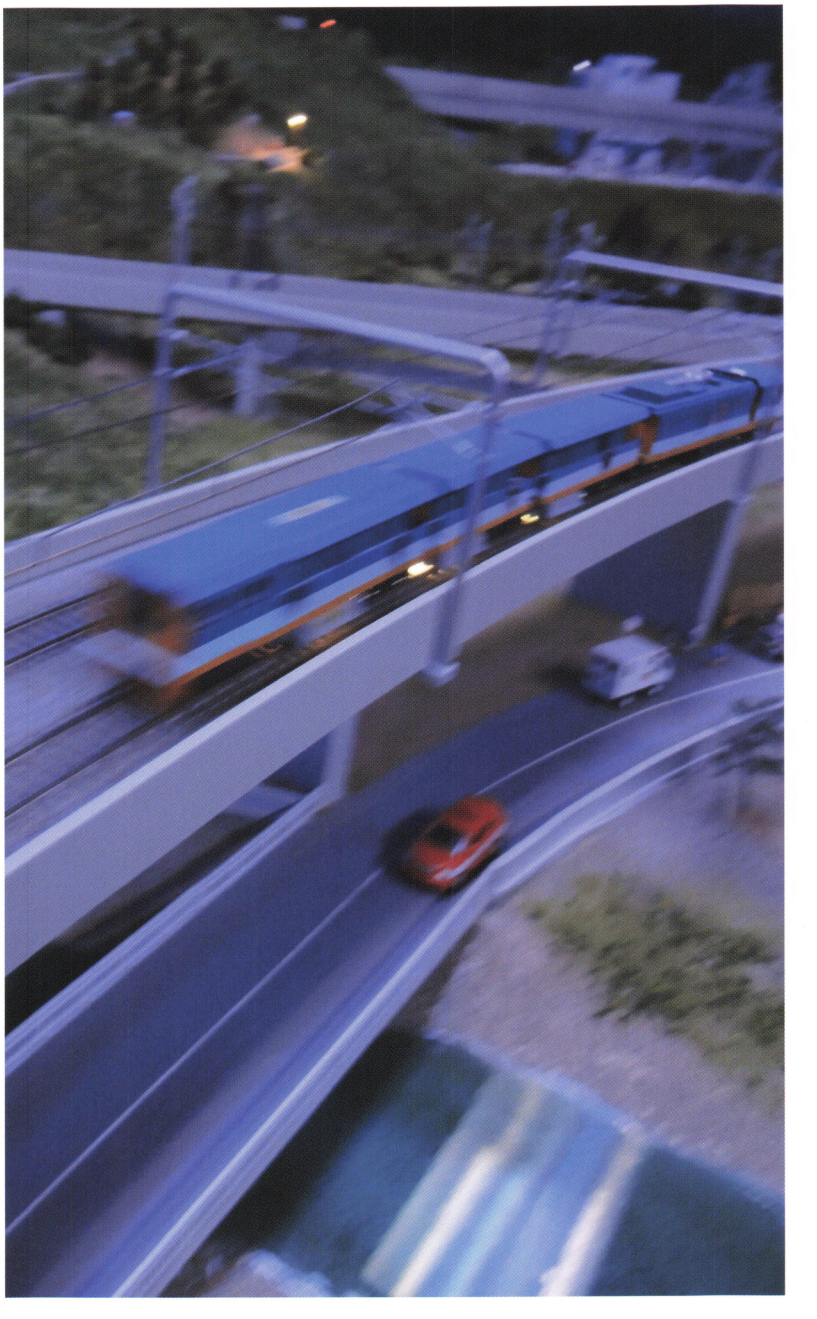
3．保守用車 | 架線を保守する作業車。

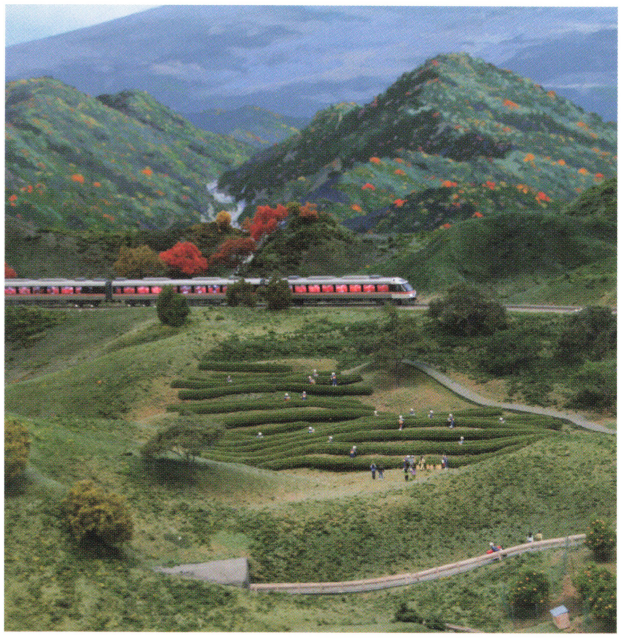
4．富士山と新幹線 | 日本を象徴する風景のひとつ。

5．山梨リニア実験線 | 営業線仕様の新型車両L0（エルゼロ）系が走り抜ける。

6．桜エビ干し | 春と秋の２回。富士川の河川敷が桜色に染まる。







1 4 6
2 5 7
3

1．キハ 75 系気動車 | 伊勢・鳥羽方面への快速「みえ」。

2．山岳線の小さな駅 | 普段は見えない駅舎の中まで作り込まれている。

3．JR 東海浜松工場 | 新幹線の検査・保守の拠点。車体のリフトアップも模型で再現。

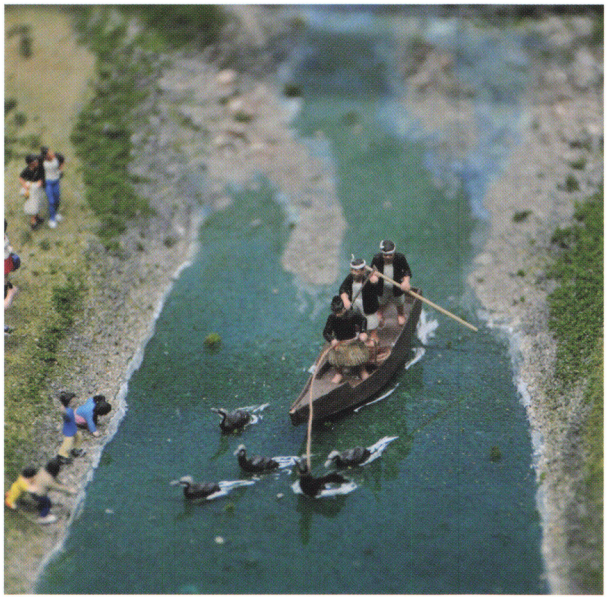
4．キハ 40 系気動車 | 採石場のそばの山岳線を走る。

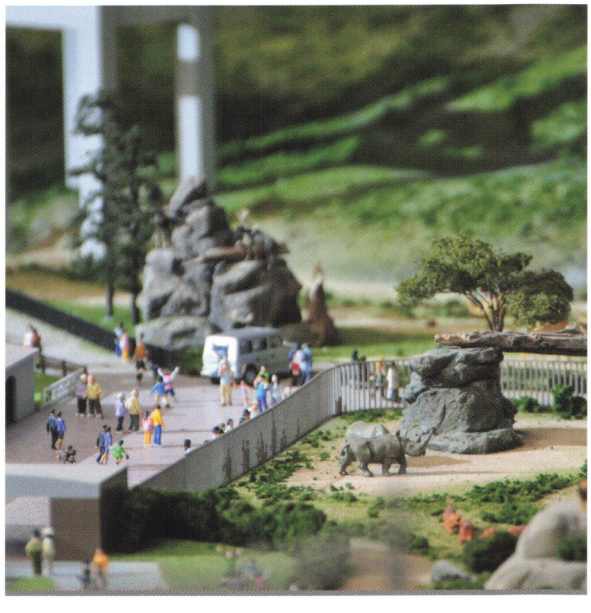
5．レール削正車 | 深夜に出動し、新幹線のレールを磨いてでこぼこをなくす。

6．キハ 85 系気動車 | 山岳線を走る特急用気動車。ワイドビュー「ひだ」。

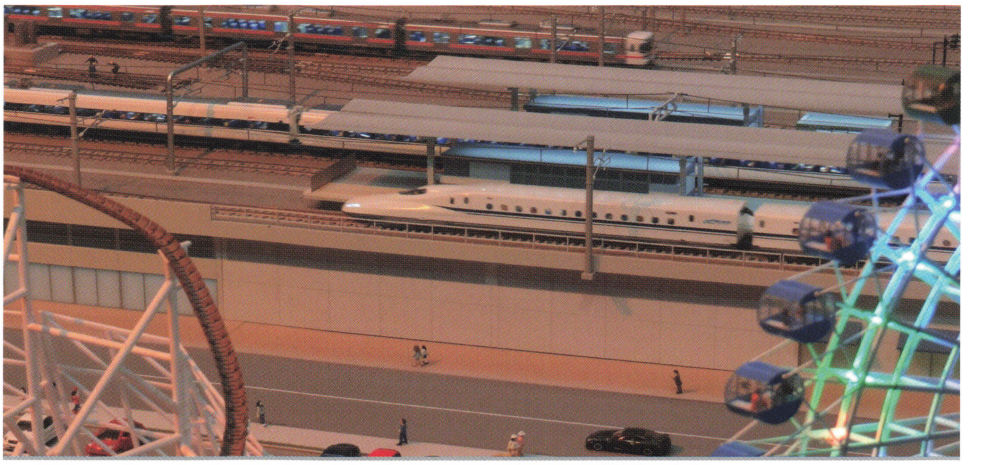
7．合掌造り集落 | 世界文化遺産「白川郷・五箇山の合掌造り集落」。

名古屋
NAGOYA





1 2 3 4 5 6



1．ロックコンサート ｜ 会場を埋め尽くすフィギュア。その数、約２千体。

2．夕方の名古屋駅 ｜ ひんぱんに発着を繰り返す新幹線。

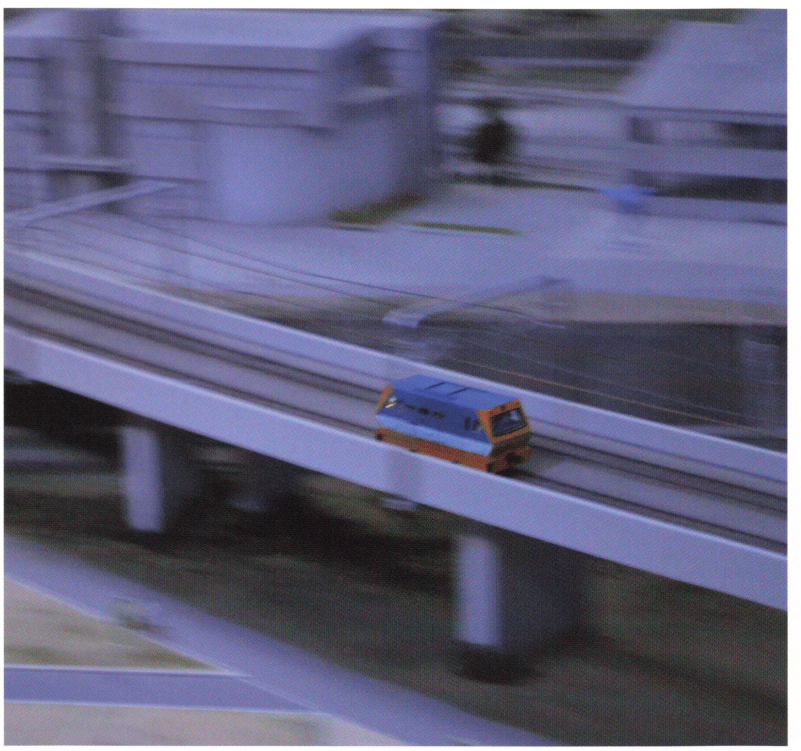
3．名古屋駅ホーム ｜ 上り新幹線ホーム。精緻に作り込まれた架線にも注目。

4．鵜飼い ｜ 長良川の夏の風物詩。

5．動物園 ｜ 動物たちもイキイキと。

6．天下分け目の戦 ｜ 関ヶ原の戦いシーンの撮影。

1
2
3
4
5
6



1．0系新幹線 | 名古屋駅に停車中の0系新幹線。

2．フル編成のサンライズ | 寝台特急・サンライズエクスプレスが深夜時間帯になると運行。

3．深夜の道床交換作業 | 道床交換用保守用車。線路の下のバラストを新しいものに交換する。

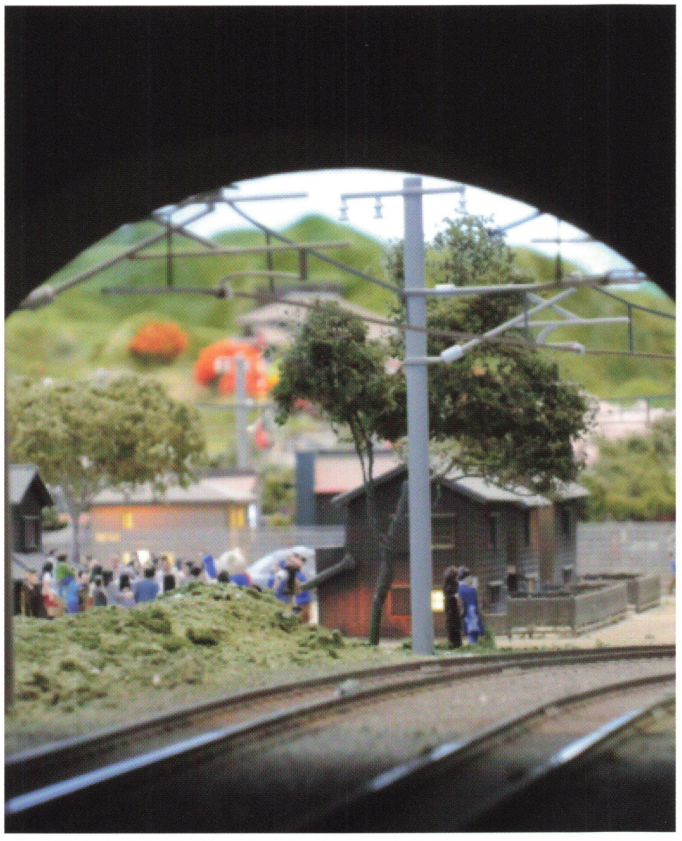
4．JR東海名古屋工場 | 在来線車両を定期的に点検し、修繕保守を行う拠点。

5．確認車による安全確認 | 夜間の保守作業の締めくくり。始発前の安全確認を再現。

6．名古屋駅桜通口 | 大型のストラクチャーで大都市を表現。

京都　奈良

KYOTO , NARA



1 2 4
3 5 6

1．花咲かじいさん ｜ 昔話シリーズのひとつ。

2．トンネルからの風景 ｜ バックヤード側から撮影した珍しいアングル。

3．祇園祭 ｜ 京都三大祭りのひとつ。ハイライトの山鉾巡行を再現。

4．清水寺 ｜ 舞台が特徴的な清水寺。背景の山と門前町も合わせて表現。

5．鳥羽駅 ｜ 参宮線の終点。観光の拠点。

6．伊勢おかげ横丁 ｜ 江戸時代の伊勢参りのにぎわいを伝える。

大阪
OSAKA

1．道頓堀 ｜ 大阪といえばやはりこの風景。

2．関西の駅 ｜ 通勤・通学でにぎわう駅。

3．通天閣 ｜ 大阪のシンボルのひとつ。

4．甲子園球場 ｜ フィギュアで埋まるアルプススタンド。バックヤードから間近に見られる。

5．117 系電車 ｜ 新快速電車として登場。

6．万博公園 ｜ 大阪城ごしに太陽の塔を見る。

探してみよう

日常シーンや隠れフィギュアも盛りだくさん！

東京駅

かごめかごめ

赤ずきんちゃん

犬につつかれる飼い主

金太郎

街頭インタビュー

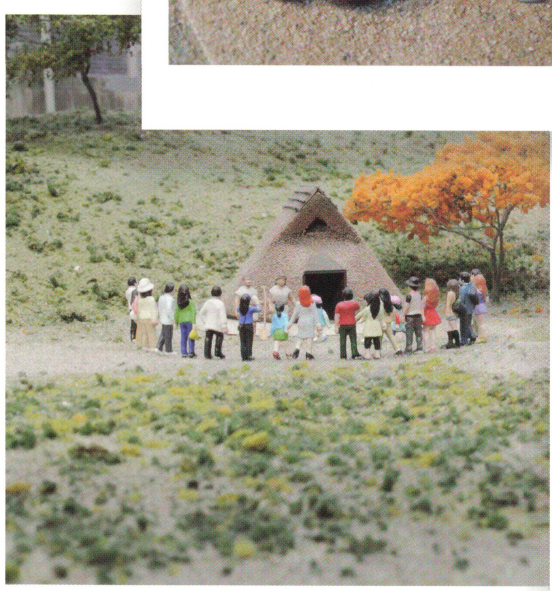
羽衣伝説

地底人

田植え

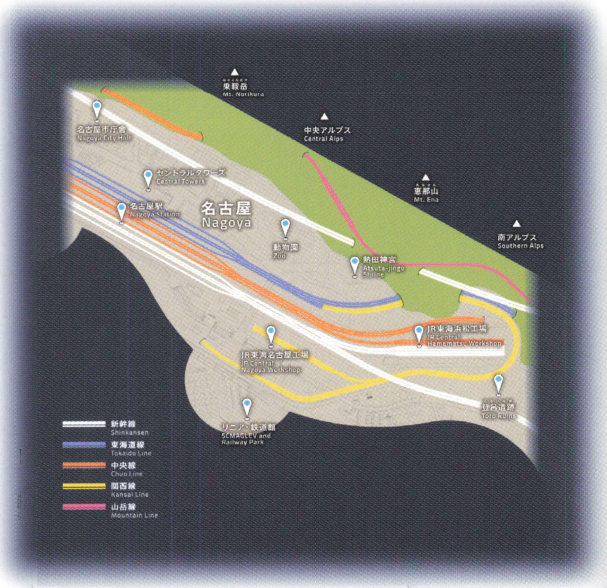
現場監督

潮干狩り



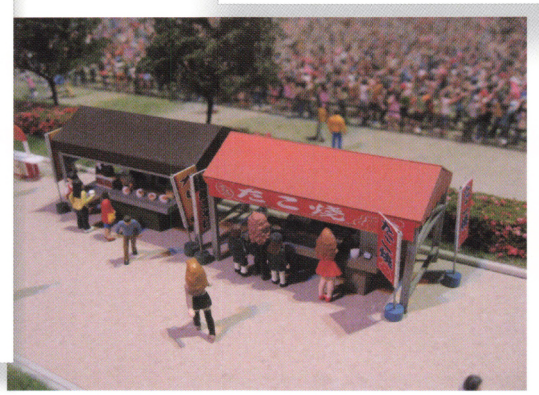
弥生時代の遺跡

採石場



雪遊び

三びきのこぶた



屋台

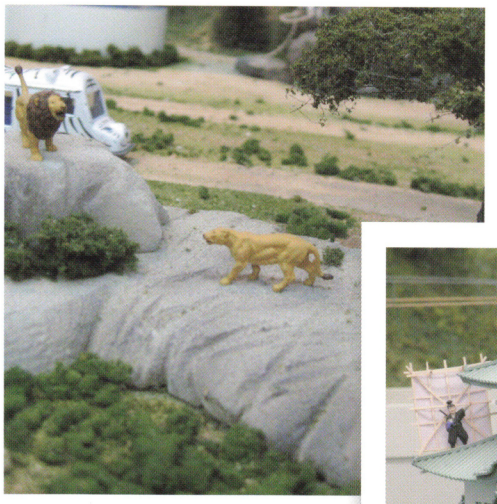
じゃれる犬

横断歩道

サンタクロース

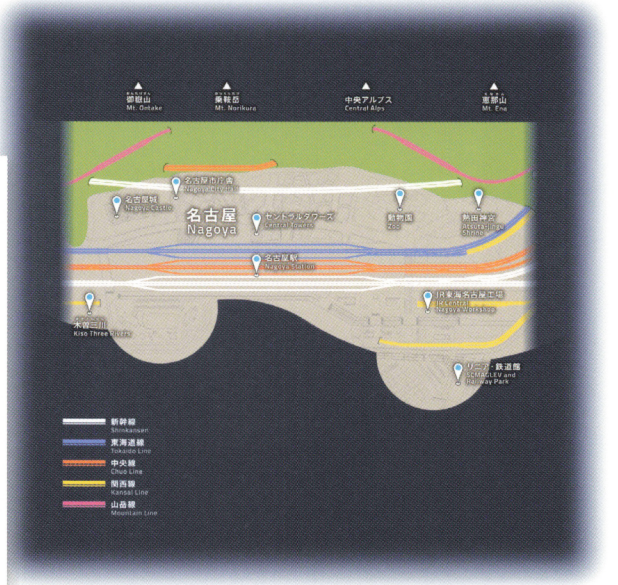
交通事故

運動会



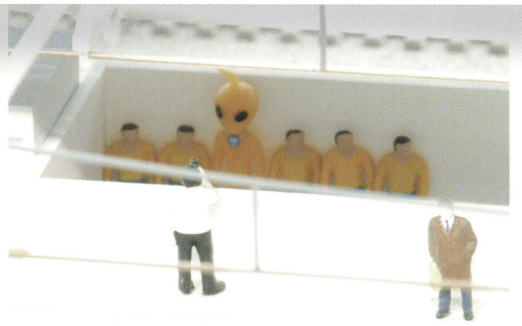
動物園

名古屋城とドロボー



熱中症

踏切待ち



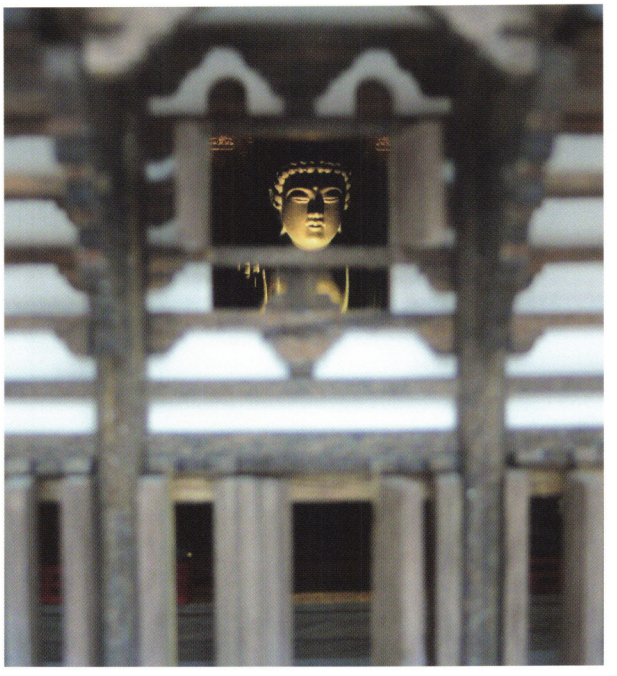
宇宙人

模型の搬入

窓ふき

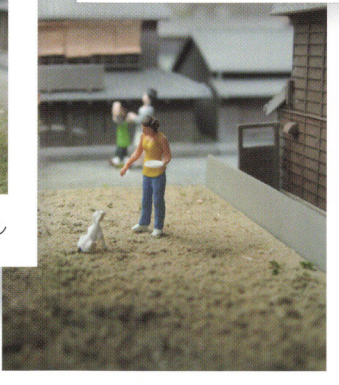
新幹線の車両工場

工事現場

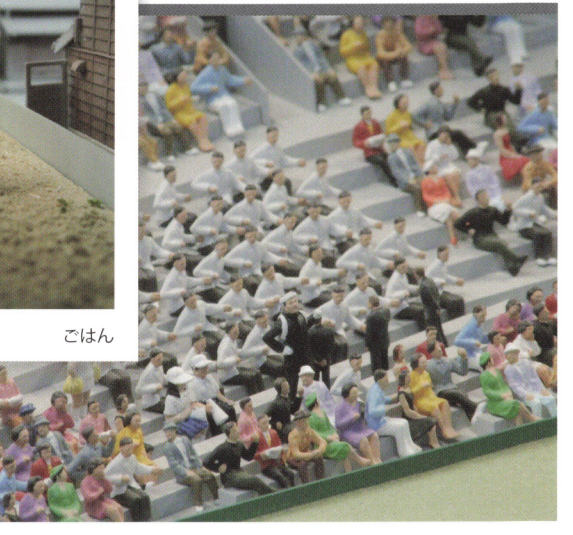


大仏さま

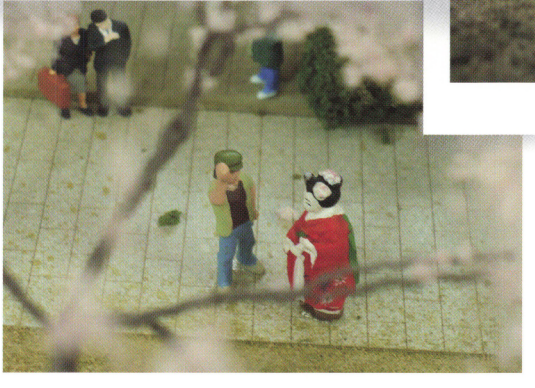
公園のカップル



ごはん

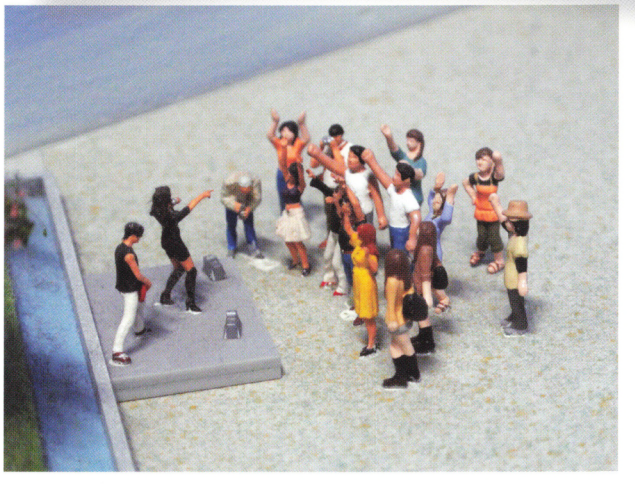


応援団



舞妓さん

町屋通り

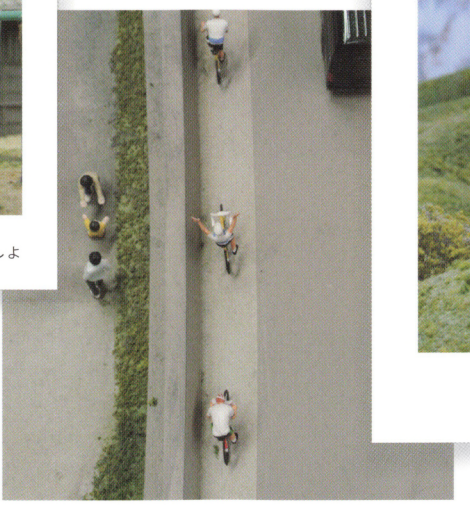


路上ライブ

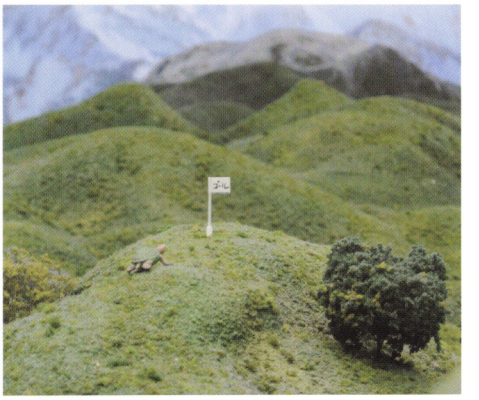
フットサル

おかみさん

おねしょ



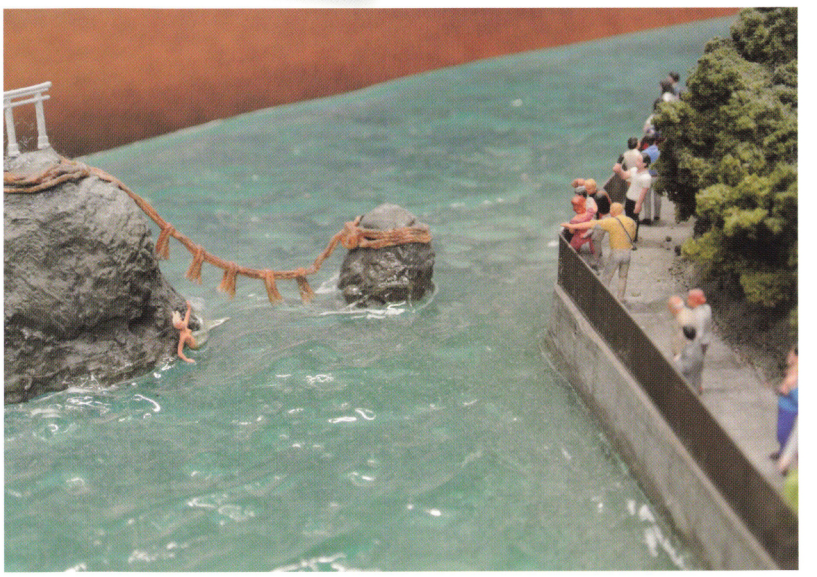
サイクリング



ウサギとカメ

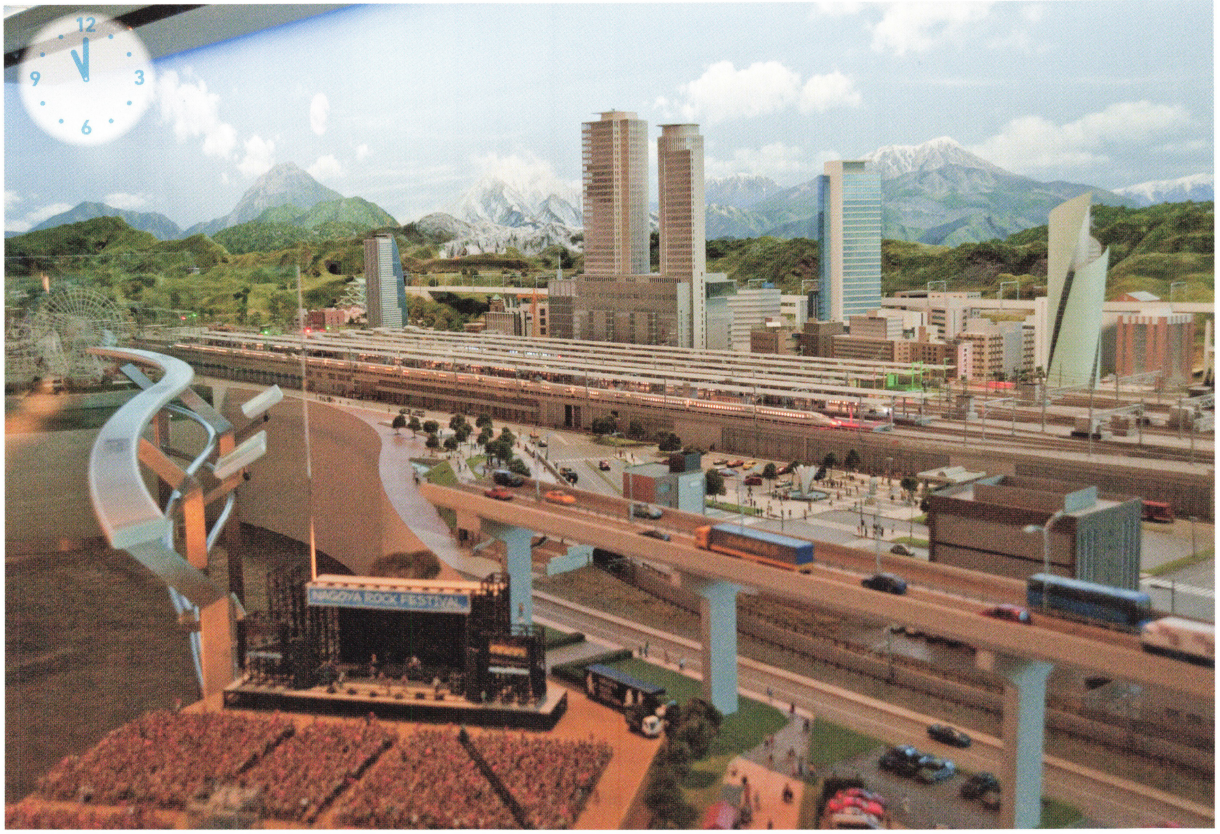
お坊さん

撮り鉄



人魚

24時間照明演出

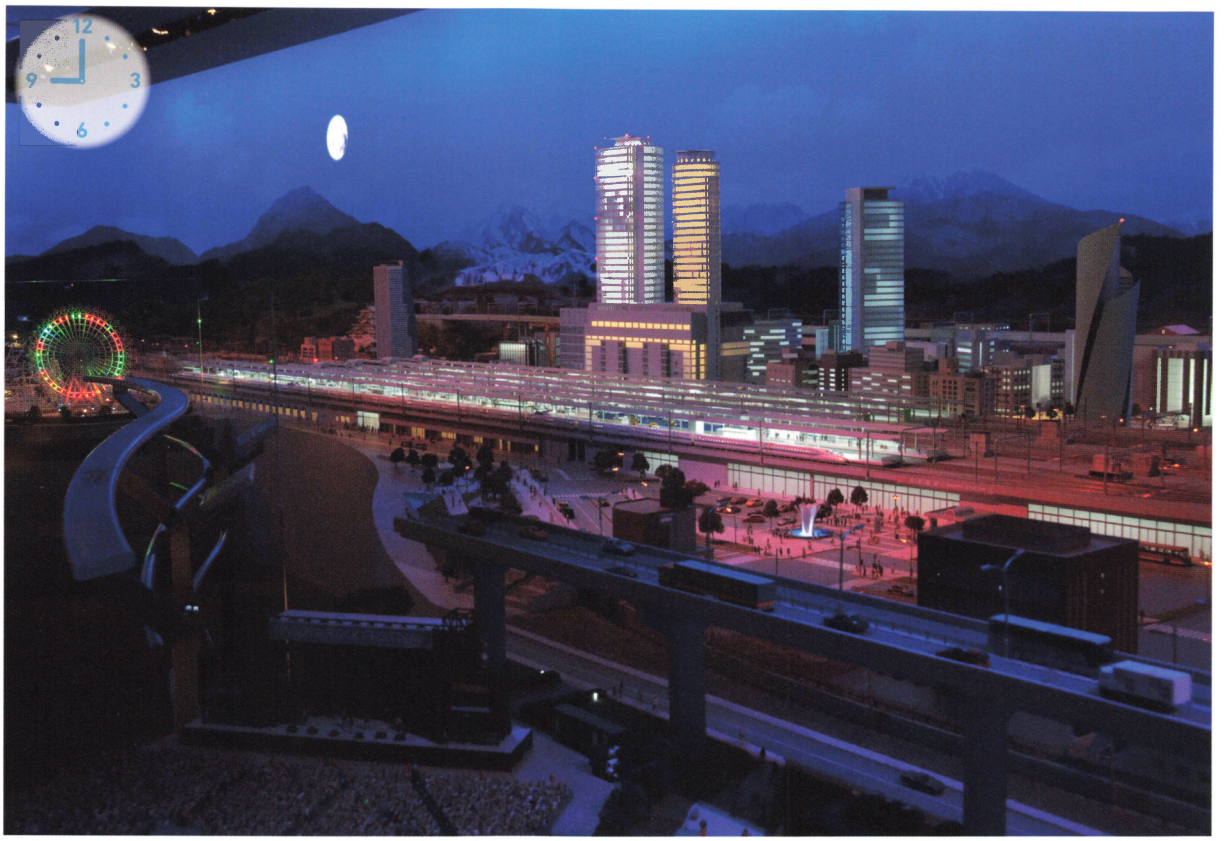


朝から昼

活気ある昼間の光景。遠くの山並みが見渡せる。

夕方

日没とともに月が出る。ロックコンサートが始まる。



夜

家路を急ぐ人々を運ぶ通勤電車。街の夜景が美しい。

深夜

街が眠りにつくなか、始発までの間、深夜の保守作業が行われる。

メンテナンスと運行

車両模型の清掃

お客さまがより臨場感を感じられるようにオープンなジオラマとしているため、車両模型にゴミやほこりがつきやすい。毎日のこまめな清掃が大切。

車両模型の点検、修理

車両模型はモーターや車輪など消耗部品を定期的に交換する。新幹線は各編成とも、1カ月に1回のペースでオーバーホールを行う。

レールの清掃

車両にはレールから電気が送られているので、長時間走らせると車輪とレールに汚れがつく。毎日レールクリーニングカーを走らせるが、充分ではない部分は、手作業での点検、クリーニングが欠かせない。

運転監視

運転は基本的に自動運転であるが、準備室からの監視は怠らない。トラブルがあれば、ただちに手動に切り替えて運転を継続する。

富井銀行
雪印
Glico
NATURE
広告

1 2 3 4 5 6

鉄道ジオラマ・スタッフ

企画・監修

東海旅客鉄道株式会社
リニア・鉄道館

企画・設計・制作

株式会社　丹青社

チーフディレクション
和田　明彦

企画ディレクション
建石　治弘

展示デザイン・設計
小山　将史　　吉田　康寛　　石渡　美穂

施工管理
加藤　勝実　　三澤　彰生　　中川　孝浩　　寺門　崇　　山田　晃裕

鉄道ジオラマ模型デザイン・設計
中井　弘志　　榛澤　吉輝

演出技術
後藤　洋一　　大野　達浩

ジオラマ模型製作

株式会社　ヤマネ

レイアウト、デジタル運行システム
高見　浩　　岡田　義則

自走ミニカー、車両カスタム
大師堂　秀征　森本　眞行

ジオラマ製作
谷　紀幸　　古賀　晶子　　田中　弘

建物模型製作
北松　照司　　辻岡　千恵

ジオラマ架台製作
松崎　晃尚　　岩崎　和彦　　横山　悟　　浦部　久雄

人形製作
前原　勲

演出・メンテナンス
福田　雄介　　宮川　雅史

背景画

有限会社　アトリエ雲
島倉　二千六

演出照明

有限会社　KAMEDEN
渡部　澄江

演出映像・音響

株式会社　NHKエンタープライズ

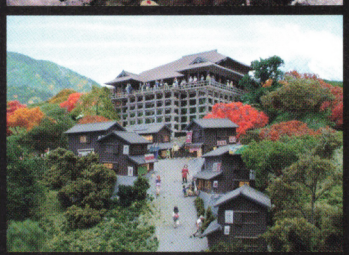
株式会社　東成社・サイバープランニング

ニッポン・システム総合力
頂点がここにある

リニア・鉄道館
SCMAGLEV and Railway Park
2011年 ディスプレイ産業大賞(経済産業大臣賞) 受賞

Internet Museum
http://www.museum.or.jp
インターネットミュージアム
博物館・美術館・イベント情報サイト

Tanseisha
〒110-8549　東京都台東区上野5-2-2
株式会社 丹青社
TEL. 03-3836-7221(代表)
札幌・仙台・新潟・名古屋・大阪・福岡・那覇・北京・上海
http://www.tanseisha.co.jp



撮影:フォワードストローク

新幹線が次々と名古屋駅に発着するデジタル運行システム

ジオラマのヤマネ

鉄道模型保守監視システム特許出願中

mini²diorama

Handmade Diorama Life

サイズは 5cm×5cm　手のひらのストーリー

Ho Dolls

HO スケールの役者たち

株式会社 ヤマネ

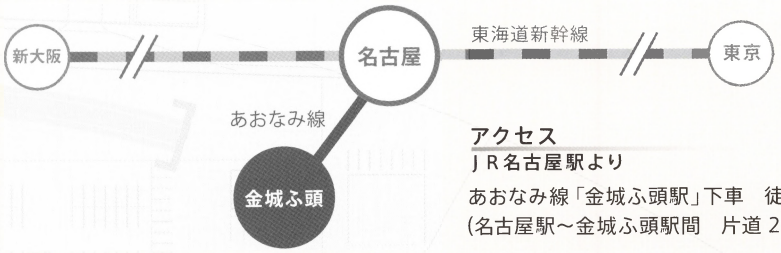
日本鉄道模型の会協賛会員

http://www.yamane.o.oo7.jp

〒561-0832 大阪府豊中市庄内西町 5-1-76

TEL06-6332-0157 FAX06-6332-7086

リニア・鉄道館のご案内



アクセス

ＪＲ名古屋駅より

あおなみ線「金城ふ頭駅」下車　徒歩約2分
(名古屋駅～金城ふ頭駅間　片道 24 分)

開館時間

10：00～17：30 (最終入館は閉館30分前まで)

休館日

毎週火曜日 (祝日の場合は翌日) 年末年始 12月28日～1月1日

※春休み、ゴールデンウィーク、夏休み等は火曜日も開館します。
※開館日はWEBサイトの開館カレンダーにてご確認ください。
　なお、天候等の理由により臨時休館する場合がございます。

入館料

大人	1,000円	[800円]
小中高生	500円	[400円]
幼児 (3歳以上未就学児)	200円	[100円]

※[] は20名様以上の団体料金
※障害者手帳をお持ちのお客様
　ご本人、付き添いの方 (1名) とも　大人500円/高校生以下200円

公式WEBサイト

http://museum.jr-central.co.jp/

※2012年3月現在

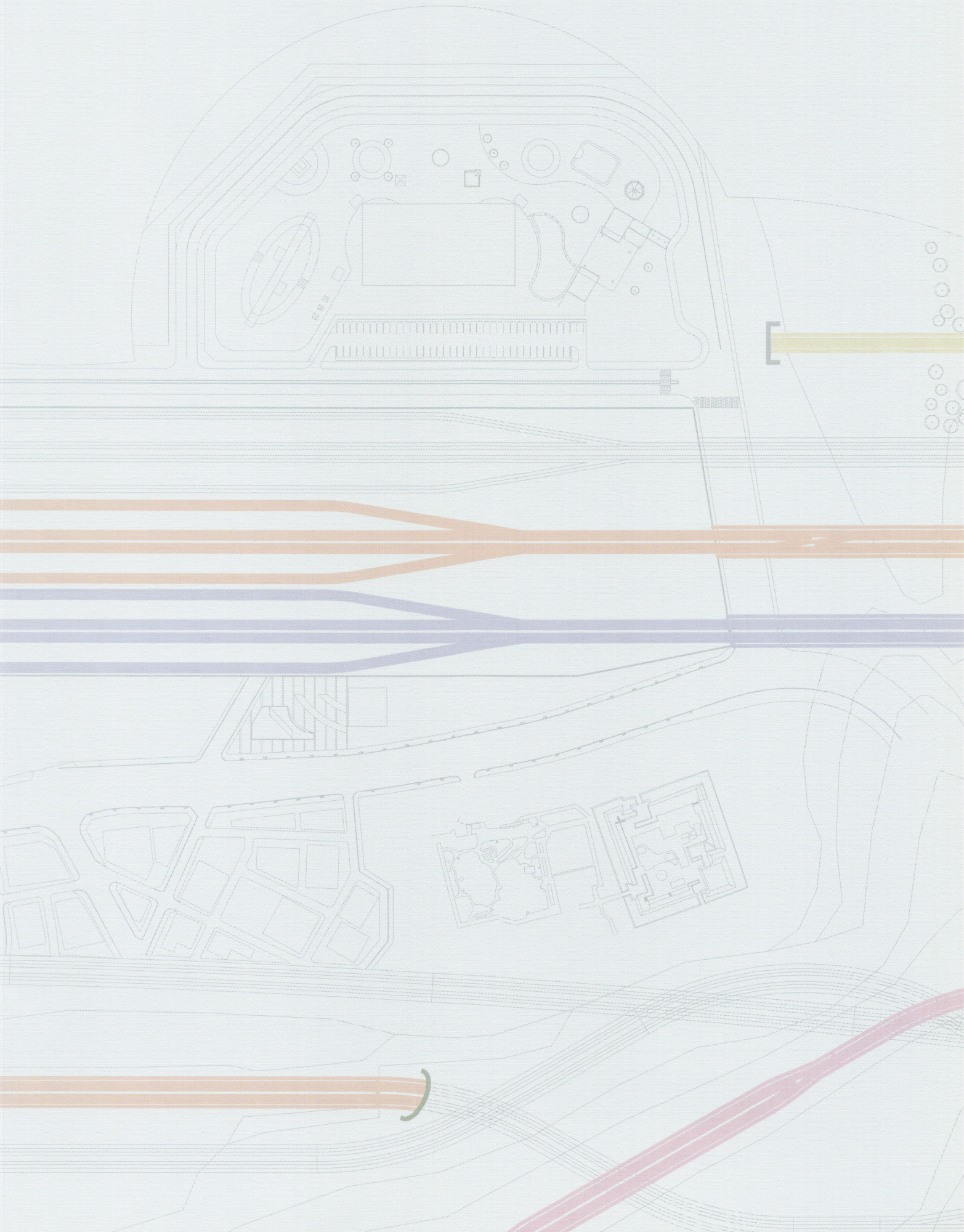
リニア・鉄道館
公式 鉄道ジオラマガイド

2012年3月14日　第1刷発行

企画・監修　東海旅客鉄道株式会社　リニア・鉄道館
編集　株式会社　丹青社
出版　株式会社　丹青社 、株式会社　ヤマネ
発行　株式会社　ヤマネ
〒561-0832
大阪府豊中市庄内西町 5 丁目 1 番 76 号
電話:06-6332-0157
FAX:06-6332-7086
印刷　株式会社　博秀工芸

編集　建石　治弘 (株式会社　丹青社)
テキスト　春日　仁
デザイン　杉谷　進 (有限会社 図考館)
写真　株式会社　スタジオバク
株式会社　フォワードストローク
スタジオAT　島　修一
株式会社　東成社・サイバープランニング
有限会社　図考館

©2012　Tanseisha+Yamane
Printed in Japan
落丁本・乱丁本はお取り替えします。　無断転載・複製を禁じます。



リニア・鉄道館
SCMAGLEV and Railway Park

4 562187 640067

株式会社 丹青社　株式会社 ヤマネ

定価　1050 円（本体 1000 円＋税）